

2 0 2 0 年度

事業報告

社会福祉法人麦の子会

目 次

2020年度の主なトピック.....	3
I 法人運営.....	6
II 児童部門(幼児).....	10
III 児童部門(学童).....	18
IV 生活支援部門.....	30
V 成人部門.....	34
VI 社会的養護部門.....	47
VI 医療・地域・相談部門.....	50

2020年度の主なトピック

①札幌市みかほ整肢園の運営がはじまりました

4月1日より札幌市の指定管理施設として運営を開始しました。4月の利用児登録は27名で1日7、8名の利用でしたが、1年間で24名入園（退園4名）21年3月には47名の登録、1日21、22名の利用となりました。

医療型児童発達支援センターとしてリハビリ中心の施設でしたが、運動会や生活発表会などの行事やクラス活動を通して、リハビリのスタッフを含め職員全員で子ども一人ひとりが主人公になれるよう取り組みました。また、家族支援としてCSPを行ったことと、日中一時支援事業やショートステイの利用もあり、家族支援が少しずつ進みました。

来年度はクラス懇談、子育て講座などを通して子どもの発達に合った子育てをお母さんに伝えるとともに、子育ての困り感を受け止め励まし、共に子育てするみかほを作り上げるために職員が一丸となり努力するものです。

②幼児部門を中心に支援体制と職員連携が充実しました

コロナ禍により北川総合施設長が法人内に滞在する時間の多い一年でした。そのため児童部門の支援構築に特に力が注がれました。子どもの支援や家族へのアプローチ、クラスづくりなどについて、総合施設長が職員と緊密に情報共有などを行いました。またクラスへのスーパーバイズも頻回に行われ、職員の支援力向上に繋がりました。

上長がオブザーションを行い、グループスーパービジョン、個別スーパービジョンを定期的に行いました。クラスの良い事や難しい事を共有する事で、現場の職員との信頼関係が深まりました。お母さんたちや子どもの困り感をグループマネージャーに相談すること、園長や関係部署に繋げていく事が増え、現場が良い方向に機能しました。子どもや家族の支援が充実した1年となりました。

③強度行動障がいへの支援の充実を図りました

成人部門においては、CSPによる肯定的な支援を全職員で徹底しました。また昨年度から引き続き片倉厚子先生のコンサルテーションを受けました。強度行動障がいと言われる大変支援の難しい方を対象にして、継続的にアドバイスを頂きました。

「支援に困っているのは職員だが、本当に困っているのは利用者の方々である」「職員がどのように工夫し、利用者の方々がやりがいや生きがいを感じてもらえるのか」という視点を基本に、支援する側が本気で関わり、それを継続していくことの大切さを厳しく教えていただきました。利用者の方も、この1年で安定した様子がみられるようになりました。

その他、少人数ながらも家族会CSPを継続していくことで、家庭での関りのについての保護者との連携をおこなうことができました。

麦の子会には多数の事業所がありますが、成人事業所を中心に利用者の方と定期的なガーデニング（花植え、雑草抜き）を行い、各事業所の美化に努めました。

④本部事務所を移転し、放課後等デイサービススタッフの環境を改善しました

2021年1月25日に本部事務所を移転しました。元の場所は放課後等デイサービスのスタッフルームとなりました。放課後等デイサービスは17拠点と数が多く、児童数も多いため組織としてうまく機能することが難しい部署です。本部機能のあったむぎのこビル2階に放課後等のスタッフを集約し、職員間の連携と放課後デイとしての価値観の統一がねらいです。

放課後等デイの組織的な支援力の向上は、数年来の課題です。新年度はアルファ・アソシエイツ(株)によるコンサルティングを放課後等デイに強化的に行います。その足がかりとしてのスタッフルームの整備でもあります。

本部事務所機能は、旧事務所から徒歩1分の新築一軒家に移り、集中した事務作業が行えるようになりました。

⑤社内 SNS を導入し、職員間の情報共有、周知が容易になりました

5月より法人職員に対する情報共有のために、「TUNAG」という IT サービスを導入しました。これまではマネージャー以上では「LINE」のトーク機能を利用してグループ毎の連絡等に利用していました。しかし法人規模も拡大し、個人向けの LINE を法人で利用することは問題も多いため法人用の連絡ツールを昨年度から検討していました。

導入後は、総合施設長からの理念の浸透、各種掲示版、学びの提供、職員同士の励まし合いや連携、コンプライアンスに関する周知等が円滑に行われるようになってきました。

今後は「社内報」的なものへの活用も考えています。

〈2020年度 実施内部研修一覧〉

研修の名称	開催月日	参加職種	講師
法人研修	4月1日	法人職員	北川園長・田村 Dr・高田施設長・近藤課長
朝研修①「発達支援」	4月13日	処遇職員	金澤地域支援部長
武田先生朝研修①「クコロピリホス」	4月20日	処遇職員	
1年目CSP養成講座①	4月16日23日	参加者	CSP管理者
1年目CSP養成講座②	4月17日24日	参加者	CSP管理者
1年目研修	5月1日	1年目職員	
武田先生②「レジリエンス」	5月18日	処遇職員	武田心理相談部長
1年目園庭受け入れ研修	5月19日	1年目職員	
コンサルテーション	5月19日	参加者	堀健一氏（IBPF代表）
サブ・アシスト研修	5月20日	サブ・アシスト	
2年目研修	5月22日	2年目職員	
リズム朝研修	6月1日	1年目職員	
4年目研修	6月5日	4年目職員	
朝研修「アンガーマネージメント」	6月8日	処遇職員	高田施設長
3年目研修	6月19日	3年目研修	
朝研修「トラウマ・アタッチメント」	6月22日	処遇職員	中井心理師
1年目研修	6月26日	1年目職員	
武田先生朝研修③「脳性まひ」	6月29日	処遇職員	武田心理相談部長
武田先生朝研修④「認知と言語」	7月13日	処遇職員	武田心理相談部長
朝研修「アウトドア」	8月3日	処遇職員	岡田教育支援課長
2年目研修「テリー先生」	8月7日	2年目職員	中本テリー氏（臨床心理学博士）
むぎのこ本出版記念講演	8月11日	処遇職員	園長・小野善郎（精神科医）
小野先生「思春期」（学童・3年目研修）	8月21日	学童・3年目職員	小野善郎（精神科医）
武田先生朝研修⑤「感情と発達」	8月24日	処遇職員	武田心理相談部長
1年目研修	8月21日	1年目職員	
朝研修「コロナ対策動画」	8月31日	処遇職員	札幌市
4年目研修	9月2日	4年目職員	
朝研修「家族システム」	9月7日	処遇職員	高本SW部長
CSP研修	9月14-15日	参加者	
5年目以上研修	9月16日	5年目以上職員	
2年目研修	9月18日	2年目職員	
CDS研修	9月19日	参加者	
サブアシスト会議	9月23日	サブ・アシスト職員	
武田先生朝研修⑥「コロナとアメリカ」	9月25日	処遇職員	武田心理相談部長
1年目研修	9月25日	1年目職員	
朝研修「ソーシャルワーク」	10月5日	処遇職員	高本SW部長
アルファ研修（GMg）	10月16日	GMg	藤原美喜子氏
ファミリーホーム研修	10月19日	参加者	橋本氏・米澤好史氏
4年目研修：黒川先生	10月21日	4年目職員	黒川新二氏（医師）
武田先生朝研修⑦	10月26日	処遇職員	武田心理相談部長
アルファ研修（リーダー）	10月29日	リーダー	藤原美喜子氏
1年目研修（交換実習）	10月26-30日	1年目職員	各事業所
黒川先生研修	11月4日	参加者	黒川新二氏（医師）

武田先生朝研修⑧	11月16日	処遇職員	武田心理相談部長
アルファ研修(Mg、サブ Mg)	11月16日	Mg、サブ Mg	藤原美喜子氏
5年目以上研修	11月18日	5年目以上職員	栗山氏
2年目研修(交換実習)	11月20日	2年目職員	各事業所
サブ・アシスト研修	11月25日	サブ・アシスト	
アルファ研修(2・3年目)	11月27日	2・3年目職員	藤原美喜子氏
1年目交換実習	11月24-27日	1年目職員	各事業所
4年目研修	12月2日	4年目職員	黒川新二氏(医師)
1年目研修	12月9日	1年目職員	
3年目研修	12月11日	3年目職員	米澤好史氏
朝研修「そり・シート滑り」	12月14日	処遇職員	中原
武田先生朝研修⑨	12月21日	処遇職員	武田心理相談部長
愛着障害について	12月25日	処遇職員	米澤好史氏
朝研修「ミュージックセラピー」	1月18日	処遇職員	田中来未
2年目研修	1月20日	2年目職員	
5年目以上研修	1月22日	5年目以上職員	片倉厚子氏
武田先生朝研修⑩	1月25日	処遇職員	武田心理相談部長
サブ・アシスト研修	1月27日	サブ・アシスト	
1年目研修	1月29日	1年目職員	
朝研修「食事」	2月15日	処遇職員	谷間栄養士
4年目研修	2月17日	4年目職員	
3年目研修	2月19日	3年目職員	
武田先生朝研修⑪	2月22日	処遇職員	武田心理相談部長
1年目研修	2月26日	1年目職員	
アルファ GMg 向け研修	3月5日	GMg	藤原美喜子氏
堀先生コンサル	3月9日	参加職員	堀健一氏
武田先生朝研修⑫	3月22日	処遇職員	武田心理相談部長

I 法人運営

1. 理事会・評議員会の開催及び監事監査の実施

(1) 役員構成

- ①理事：田村 元（理事長） 北川聡子（常務理事） 山崎千恵美 古家好恵
木村瑞穂 高田隆一
- ②監事：末永仁宏 向谷地生良
- ③評議員：尾崎祐一 金田光夫 田澤泰明 中原明 長谷川寛治 藤井康弘
光増昌久

(2) 評議員会の開催

定時評議員会（2020年6月20日（土））

ア. 報告事項

- (1) 2019年度事業報告

イ. 審議事項

- (1) 監事監査報告の件
- (2) 2019年度計算書類承認の件
- (3) 定款変更の件

書面決議1（2020年7月13日付）

ア. 決議事項

- (1) 議事録署名人について
- (2) 基本財産の追加、担保提供の件
- (3) 定款変更の件

(3) 理事会の開催

第1回理事会〈定時〉（2020年5月22日（金））

ア. 報告事項

- (1) 業務執行報告 (2) 人事報告

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) 2019年度事業報告の件
- (3) 2019年度決算報告の件
- (4) 監事監査報告の件
- (5) 定時評議員日程の件
- (6) 定時評議員会議案の件
- (7) 定款変更の件
- (8) 新型コロナ手当支給の件
- (9) 福祉車両譲受の件
- (10) ジャンプレッツ（就労移行支援）工賃適正額検討の件
- (11) 育児・介護休業等に関する規則一部修正の件
- (12) 今年度理事会日程の件

書面決議1（2020年7月6日付）

ア. 決議事項

- (1) 議事録署名人について
- (2) 基本財産の追加、担保提供の件
- (3) 定款変更の件

第2回理事会（2020年7月31日（金））

ア. 報告事項

- 1) 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について 2) 人事報告

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) 令和3年度障がい者地域生活サービス基盤整備事業申請の件
- (3) 西尾記念ホール建設用地購入の件
- (4) 小規模住居型児童養育事業新設工事に係る入札の件
- (5) 共同生活援助（グループホーム）住居グロース開設の件
- (6) 就業規則改定の件
- (7) パート職員就業規則及び給与規程改定の件
- (8) 次回理事会日程の件

第3回理事会〈臨時〉（2020年9月18日（金））

ア. 審議事項

- (1) 小規模住居型児童養育事業施設（ファミリーホーム）「仮称むぎのこホーム」創設事業入札結果承認及び契約締結の件

第4回理事会〈定時〉（2020年10月30日（金））

ア. 報告事項

- (1) 理事長及び業務執行理事の職務遂行状況について
- (2) 人事報告
- (3) 会計報告
- (4) 監事監査報告

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) 本部事務所用地・建物の取得の件
- (3) 日本財団補助金申請の件
- (4) 施設等整備積立金及び備品等購入積立取崩の件
- (5) サテライト型住居（アンサテライト）付設の件
- (6) 給与規程改定の件
- (7) 次回理事会日程の件

第5回理事会〈定時〉（2020年12月22日（火））

ア. 報告事項

- (1) 理事長及び業務執行理事の職務遂行状況について
- (2) 人事報告
- (3) 会計報告
- (4) 監事監査報告

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) 2020年度第1次補正予算の件
- (3) 事業所移転及び利用者移籍の件
- (4) 給与規程改定（業務手当追加）の件
- (5) 給与規程・パートタイム職員就業規則及び給与規程改定（年末年始休暇勤務手当新設）の件
- (6) 経理規程改定の件
- (7) 旅費規程改定の件
- (8) 次回理事会日程の件

第6回理事会〈定時〉（2020年3月19日（木））

ア. 報告事項

- (1) 理事長及び業務執行理事の職務遂行状況について
- (2) 人事報告
- (3) 会計報告
- (4) 監事監査報告

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) 2020年度第2次補正予算の件
- (3) 2021年度事業計画の件
- (4) 2021年度予算案の件

- (5) 新評議員候補者選定の件
- (6) 所定労働時間変更とそれに伴う規定類改定の件
- (7) 妊娠SOS相談事業開設の
- (7) グループホーム管理費追加及び一部家賃変更の件
- (8) 当別町子ども発達支援センター見積合わせ応諾の件
- (9) **利用者給食費変更の件**
- (10) むぎのこ保育園保育料変更の件
- (11) 施設設備積立金取崩しの件
- (12) 運営規定及び重要事項説明書一部改定の件
- (13) **職務専念義務免除の件**
- (14) 当別町子ども発達支援センター見積もり合わせ応諾の件
- (15) 次回理事会日程の件

(4) 監査・指導の実施

実施者	監査実施日	監査項目
末永 仁宏 監事	①2020年 5月16日 ②2020年 9月23日 ③2020年 11月27日 ④2021年 2月12日	法人定款第18条の規定に基づき、2018年度事業に係る理事の業務執行の状況及び法人の財産の状況。
向谷地生良 監事	①2020年 5月16日 ②2020年 10月27日 ③2020年 12月18日 ④2021年 3月15日	法人定款第18条の規定に基づき、2018年度事業に係る理事の業務執行の状況。
札幌市 ・監査指導室 ・障がい福祉課 ・保健所	新型コロナにより当年度は実施なし	
札幌市集団指導に準じた資料供覧	2020年12月23日通知	障害者自立支援法・児童福祉法による全事業が対応
札幌市児童相談所	2020年10月29日	・ガブリエルホーム（ファミリーホーム） ・ペーテルホーム（ファミリーホーム）

(5) 助成・補助金

受入事業所	交付団体等	助成・補助金内容	助成額
法人	高齢・障害求職者雇用支援機構	雇用調整助成金	2,268,000円
法人	厚生労働省	コロナ感染症による小学校休業対応助成	3,166,923円
法人全体（35事業所）	北海道国民健康保険団体連合会	新型コロナウイルス感染症支援金	17,774,000円
グループ	札幌市	FHグループ 建築資金	30,318,000円
グループ	札幌市	R2年度児童福祉施設等環境改善事業	8,000,000円
ミモザ	札幌市	R2年度児童福祉施設等環境改善事業	8,000,000円
むぎのこ保育園	札幌市	新型コロナウイルス感染症対策事業補助金	427,000円

(6) 主な施設・事業所整備事業

事業所名	工事名	請負業者	工事価格
ファミリーホーム グレーブ	ファミリーホーム新設 工事	(株)タクト	40,425,000 円
ファミリーホーム ミモザ	ファミリーホーム増築 工事	(株)タクト	9,790,000 円
グループホーム ホワイトハウス住居	グループホームグロー ス新築工事	ユニバーサルホーム (株)	30,974,844 円

(7) 入札（一般・指名）執行状況

入札名	落札業者名	契約金額
ファミリーホーム新設工事	(株)タクト	40,425,000 円

2. 事業運営

(1) 第2種社会福祉事業

- 1) 障害児通所支援事業の経営
- 2) 障害福祉サービス事業の経営
- 3) 小規模住居型児童養育事業の経営
- 4) 移動支援事業の経営
- 5) 相談支援事業の経営

(2) 公益事業

- 1) 診療所の設置経営
- 2) 日中一時支援事業の設置運営
- 3) 札幌市障がい児等療育支援事業
- 4) 当別町こども発達支援センター専門職員指導業務
- 5) 当別町こども発達支援センター発達支援専門員派遣業務
- 6) 認可外保育園の設置経営
- 7) 西尾リプロセス心理臨床研究所の設置運営
- 8) 札幌市あかしあ学園の給食調理業務

Ⅱ 児童部門（幼児）

むぎのこ児童発達支援センター（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

	4月	5月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	49	50	52	52	52	54	54	54	55	56	58	59	53.8
北区	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	16	16.9
西区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0
手稲区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
計	72	73	75	75	75	77	77	77	78	79	81	81	76.7

(2) 利用延べ人数

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	1057	1105	1367	1328	1123	1349	1381	1219	1281	1268	1224	1406	15,108

(単位 人)

2. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
児童発達支援管理責任者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
児童指導員	常勤	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6
保育士	常勤	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
栄養士	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
児童指導員	非常勤	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
保育士	非常勤	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
指導員	非常勤	6	6	7	7	7	7	7	8	8	8	12	12
調理員	非常勤	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
その他	非常勤	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4
合計		44	44	44	44	44	44	44	45	45	44	50	50

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・年2回作成、前期後期それぞれ評価、面接を行い同意を頂いた。
- ・計画に基づいた療育、保護者に子育てへのアドバイスをを行うことが出来た。

(2) 主な日中活動

- ・基本 朝の会、リズム、絵本の読み聞かせ、公園遊び（遊具遊び、水遊び、鬼ごっこ、探索散歩、そり遊び）
- ・室内遊び（サーキット 大根抜き はいちもんめ じゃんけん列車 ハンカチ落とし）
- ・園庭（ターザンロープ、水運び、泥んこ遊び、プール遊び、そり遊び）
- ・親子遊び（とっちゃんかっちゃん ギッタンパッコン、たけこがはえた、バス遊び でこちゃんはなちゃん、ふくすけさん ぞうきん）

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	始業式 避難訓練
5月	父親参観週間、お誕生会、避難訓練 園医健診

6月	美香保遠足 お誕生会、避難訓練
7月	避難訓練
8月	I期終業式、II期始業式、避難訓練
9月	親子発達支援 運動会、避難訓練
10月	避難訓練 三角山遠足 お誕生会
11月	生活発表会総練習、避難訓練、お誕生会 園医健診
12月	生活発表会 大避難訓練、コンサドーレ来園、クリスマス会、もちつき、お誕生会、II期終業式
1月	III期始業式、お正月会、避難訓練、父親参観週間
2月	豆まき、お誕生会、避難訓練
3月	ひなまつり、卒園感謝会、避難訓練、修了式・離任式、お誕生会

4. 施設設備管理業務

・火災報知器、消火器の点検(法定点検年2回)

5. 防災対策

(1)防火管理者の状況

職名	園長	氏名	北川聡子	選任届出年月日	2015年4月17日
----	----	----	------	---------	------------

(2)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
R2・4・17	避難・消火・通報・救出・その他	R2・10・16	避難・消火・通報・救出・その他
R2・5・15	避難・消火・通報・救出・その他	R2・11・20	避難・消火・通報・救出・その他
R2・6・19	避難・消火・通報・救出・その他	R2・12・18	避難・消火・通報・救出・その他
R2・7・10	避難・消火・通報・救出・その他	R3・1・15	避難・消火・通報・救出・その他
R2・8・7	避難・消火・通報・救出・その他	R2・2・19	避難・消火・通報・救出・その他
R2・9・18	避難・消火・通報・救出・その他	R3・3・19	避難・消火・通報・救出・その他

6. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
職員会議	毎月1回	12回		管理者・児童発達支援管理者・保育士・児童指導員	18名	
クラス会議	週1回	168回		管理者・児童発達支援管理責任者・保育士・児童指導員	15名	クラスごとに開催(3~4名)
ケースカンファレンス会議	必要時	40回		管理者・児童発達支援管理責任者・保育士・児童指導員	15名	クラスごとに開催(3~4名)
個別支援計画会議	前期 後期	2回		管理者・児童発達支援管理責任者・保育士・児童指導員	13名	
児童発達支援管理責任者会議	月1回	12回		児童発達支援管理責任者	1名	

7. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法

8. 評価と展望

[評価]

- ・コロナ禍でのスタートだったが、YoutubeやZoomでの療育なども早期に取り入れて、自粛している家庭にも発達支援の提供を行う事ができた。また、例外的な報酬算定を行い、安定した運営を行う事ができた。
- ・園長中心にGmgがクラスに入り、子どもや家族の支援と一緒に考え、共にクラスづくりを行った。その結果、子どもや家族の困り感がオープンになり、必要な部署や助けに繋がりが、より良い支援に繋がった。

- ・SV体制をとり、クラスでの良い事や難しかった事も全体で共有する事で職員同士も一致して支援を行う事ができた。
- ・コンサルテーションに若い職員も参加して、発表を行う事で、次につながる支援の学びを深める事ができた。

〔展望〕

- ・引き続き、法人全体で感染防止を行い、子どもたちの安全を守っていく。また、障がいのある子どもたちもコロナ禍の中安心して生活していけるよう、マスクをつける練習を取り入れていく。
- ・引き続き、園長中心にGmgがオブザーベーションを行い、子どもや家族のより良い支援につなげていく。また、学びの場を提供して、支援力の向上に努めていく。
- ・子どもや家族の困り感に寄り添って、「共に生きる」むぎのこのミッションを実行していく。

保育所等訪問支援

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数(新規・延べ)

〈新規〉

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			2

〈延べ〉

(単位 人)

区市町村	延べ	(新規)
東区	12	(2)
北区	3	0
中央区	1	0
計	16	(2)

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	1	0	1	1	2	0	2	0	0	0	2	1	10

5. 評価と展望

- ・訪問支援のニーズを把握し、アセスメントに基づき、訪問支援を実施した。
- ・ニーズに応じた、支援量の確保が困難。
- ・学校への保育所等訪問支援のニーズはあるが、人的保障が得られず対応は困難。

児童デイサービスむぎのこ（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	24	26	28	28	31	32	32	33	34	34	34	34	33.6
北区	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2.6
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
中央区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2.8
措置	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.9
計	31	34	36	36	40	41	41	42	43	43	42	42	39.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計

人数	233	219	270	261	203	248	285	218	221	226	223	262	2869
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・子どもたちが安定して見通しを持ち能動的に活動に参加できるようにオブザーベーションを受けてクラスの構造化を改善していった。
- ・C S Pを活動に取り入れ、効果的な褒め方や予防的教育法を用いて子どもと関わり、繰り返し取り組む事で徐々に適応行動が増えていった。母にも小グループでセッションを行う事ができ、母子通園や面談での具体的なアドバイスにも繋がった。
- ・要支援家庭をショートステイ、ホームヘルパー、相談室やグループマネージャーと協力して、児童相談所や家児相などの連携機関とも連携しながら家族を支えることができた。

〔展望〕

- ・クラスの子どもや職員の困り感をしっかりアセスメントし把握したうえで上司に相談し、前向きに改善するクラスづくりを行っていく。
- ・新入園児の多いクラスなので、年度初めは契約児童が少なく、一日当たりの登園児童が少なくなりがちである。子どもたちの安定した暮らしや活動のために支給日数を増やしたり、継続した登園に繋がるように保護者にアプローチする。
- ・新型コロナやその他感染症の予防、事故や怪我のない安全な療育が出来るよう、職員が連携して療育を行っていく。

プレイ（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	18	20	21	21	22	23	22	22	22	20	20	20	20.9
北区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
中央区	0	0	0	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1.4
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2.25
計	24	26	27	27	28	29	28	28	28	27	27	27	

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	168	197	246	231	197	224	236	220	219	225	196	207	2566

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・園長やGMgによるコンサルテーションを受け、クラスの構造化を行い、療育に生かすことができた。
- ・相談室やショートステイ等、必要なサービスと家庭を繋げることができた。
- ・家族の困り感を事業所内相談支援や母子通園時、送り迎え時、電話連絡などで聞き取り、クラス職員、GMgと共有し、支援に繋がった。

〔展望〕

- ・新型コロナウイルスによる、登園自粛や発熱等による急な欠席も多く、利用人数が振るわないことがあったので急な欠席の場合は、欠席時対応加算や家庭との電話連絡等を積極的に行い、例外的報酬算定を行えるようにする。
- ・発達に合わせて、構造化を行い、子どもと家族が安心して過ごせる環境を設定する。
- ・家族の背景や困り感に寄り添い、必要な制度や関係機関と連携する。

セーボネス（児童発達支援）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	11	11	11	11	11	11	10	10	12	12	12	12	11.2
北区					1	1	2	2	2	2	2	2	1.75
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置							2	2	2	2	2	2	2
計	12	12	12	12	13	13	15	15	17	17	17	17	14.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	180	180	203	188	162	174	268	237	244	239	225	258	2558

8. 評価と展望

[評価]

- ・運営面→安定した子どもの人数で運営することが出来た。
- ・子ども一人一人に合わせてアセスメントをし療育することが出来た。
- ・家族支援では、お母さんの背景や生い立ちを面談で把握し、支援につなげることが出来た。
- ・部下育成では、一人一人と個別に話をする時間を取り、育成に努めた。

[展望]

- ・発達支援で大事にしている CSP を用いた関わりを行い、子ども達に肯定感を持つ事が出来る療育を行う。
- ・子どもや家族が利用できる機関を職員で把握し、困り感のある家庭により良い支援を行っていく。
- ・毎月、毎日の書類はクラス職員で確認し、確実に進めて行くよう連携していく。

スタディ（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	14	14	14	14	14	13	14	15	15	15	15	15	15.5
計	14	14	14	14	14	13	14	15	15	15	15	15	15.5

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	203	210	271	251	209	231	260	221	228	219	211	254	2,768

8. 評価と展望

[評価]

- ・運営面→安定した子どもの人数で運営することが出来た。
- ・子ども一人一人に合わせてアセスメントをし療育することが出来た。
- ・家族支援では、お母さんの背景や生い立ちを面談で把握し、支援につなげることが出来た。

- ・部下育成では、一人一人と個別に話をする時間を取り、育成に努めた。

〔展望〕

- ・職員同士、目と目、言葉と言葉、声と声で、連携してチームで子どもの支援に取り組む。
- ・職員が研修に積極的に参加し、様々な学びを深めて支援に活かしていく。

ライラック（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

（単位 人）

区市町村	4月	5月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	11	11	13	13	14	15	15	15	16	17	16	16	14.3
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	12	12	14	14	15	16	16	16	17	18	17	17	15.3

(2) 利用延べ人数

（単位 人）

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	135	157	180	190	147	198	209	177	182	198	182	227	2182

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・療育ではCSPを取り入れ効果的な褒め方、予防的教育法を行うことで適応行動を増えた。いろいろな遊びの経験を通して、楽しさを味わい自信につながった。
- ・安全のためのマニュアルに沿って実行し大きな事故はなく子どもの安全を守る事ができた。又、コロナ感染症予防に配慮しながら療育を進め習慣化していった。
- ・家族支援では家庭との連携を密にし、職員間ではクラス会議等で共通理解の下、子どもと関わる事ができた。

〔展望〕

- ・アセスメントを行い家族の様子を把握し、必要な支援につなげていく。
- ・個別支援計画に基づき療育を行い、療育の進め方で困った時には職員間で意見を出したり協力し合う。
- ・法人全体の感染症流行状況を把握し、職員、子供の安全を守っていく。

ヨシア〈シーランチ〉（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

（単位 人）

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
北区	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6.5
計	20	20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19	19.5

(2) 利用延べ人数

（単位 人）

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	247	238	256	271	210	257	272	237	248	237	224	274	2971

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・事業所経営：安定した利用人数で、運営する事が出来た。
- ・子ども1人1人を療育の中でしっかりアセスメントして、必要な支援や関わりを行なう事が出来た。
- ・職員がCSPに取り組む事は勿論、家族支援の中でもCSPを共有し、般化する事で子どもとの肯定的な関わりを心掛ける事が出来た。

〔展望〕

- ・困り感のある家庭が今後も多く通園する事が予測されるので、家族の背景を理解した中での支援を継続して行なっていく。また、情報共有を大切にする。
- ・職員同士声を掛け合い、連携してチームで子どもの支援に取り組む。
- ・職員が研修に積極的に参加し、様々な学びを深めて支援に活かしていく。

ヨシア（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	10	11	11	11	10	11	11	12	10	10	10	10	11
北区	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
中央区							1	1	1	1	1	1	1
計	15	16	16	16	15	16	17	18	16	16	16	16	16

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	212	181	241	237	176	221	269	229	227	236	217	275	2721

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・事業所経営：安定した利用人数で、運営する事が出来た。
- ・子ども1人1人を療育の中でしっかりアセスメントして、必要な支援や関わりを行なう事が出来た。
- ・職員がCSPに取り組む事は勿論、家族支援の中でもCSPを共有し、般化する事で子どもとの肯定的な関わりを心掛ける事が出来た。

〔展望〕

- ・困り感のある家庭が今後も多く通園する事が予測されるので、家族の背景を理解した中での支援を継続して行なっていく。また、情報共有を大切にする。
- ・職員同士声を掛け合い、連携してチームで子どもの支援に取り組む。
- ・職員が研修に積極的に参加し、様々な学びを深めて支援に活かしていく。

スプリング（旧むぎのこ大通教室）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	5	1.5
南区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

中央区	13	13	12	12	12	10	10	10	10	10	10	10	11
計	15	15	14	14	14	12	12	12	12	12	12	16	13.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	161	152	185	172	166	168	139	122	127	148	152	219	1911

8. 評価と展望

[評価]

- ・運営面では、今年度は利用者が少なく利用率が低くなってしまった。
- ・事務面では、それぞれが期日までに書類を作成することを意識して行うことが出来た。
- ・家族支援では、事業所内相談支援を定期的に行い、支援につなげることが出来た。
- ・発達支援では、一人一人のアセスメントを行い、IEPに基づいて支援を行うことが出来た。
また、CSPを用いて、効果的な褒め方、予防的教育法を用い、子どもたちへの肯定的な関りを多く行っていった。

[展望]

- ・次年度は、放課後等デイサービスのみになるので、室内の構造化も学年に合わせたものに変えていく。
- ・今後もCSPを用いた支援を行っていく。具体的なターゲットスキルに基づいたスキル練習の回数を増やし、子どもたちへの効果的に褒める回数を増やしていきたい。

ライオン（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	11		12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
措置	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	228	226	267	272	211	262	274	237	248	236	218	274	2953

8. 評価と展望

[評価]

- ・新年度早々に園長がクラスのオブザーションに入ってくれ、構造化や関わりのアドバイスを受けることが出来た。
- ・年長・年中の混合クラスで、年長児は毎日年長活動に参加することが出来た。
- ・要保護家庭や家族支援の多いクラスであったが、園長のアドバイスを受け、新リーダーの職員も面談に入り、積極的に家族支援を行うことが出来た。母向けのCSP講座も1名の母が参加出来た。

[展望]

- ・家族支援を継続し、保護者の気持ちに寄り添い必要な制度の利用を勧め、相談室やショートステイ、ヘルパー、心理相談部などとの連携等、チームで支援していく。
- ・発達支援では、CSPを用いた関わりと発達に見合った活動や関わりを継続してパートさんも含めた担任職員全員で行う。
- ・職員は社会スキルを身につけ、助けを求めあえる関係性を築く。研修に参加し、専門性を高めて質の良い支援を行う。

ライオン（重症心身障害児対応）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

（単位 人）

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
西区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15

(2) 利用延べ人数

（単位 人）

	4月	5月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	137		197	167	149	186	198	158	148	165	158	185	1984

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・子どもたちを効果的に褒めていたことを繰り返し行うことによって子どもたちが自信を持ち自己主張をすることができるようになった子が多くなってきた。
- ・書類整備では、内部監査を行っていたことで概ねクラスごとの書類はその場でチェックされるの
で大きな混乱なく終わることが出来た。職員同士協力し合い行った。

〔展望〕

- ・コロナで安全に配慮していきながら活動をしているがこれからも安心、安全を心掛けて子どもたちの生活を保障していきたい。
- ・お母さん方のお話を聞いてきながら家族支援や事業所内相談支援を多く取っていきたい。

Ⅲ 児童部門（学童）

プレイ（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

（単位 人）

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
北区	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	4.6
計	22	22	22	22	23	23	23	23	23	23	23	23	22.6

(2) 利用延べ人数

（単位 人）

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	224	217	257	253	198	236	262	205	215	229	187	253	2736

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・CSP を用いた支援を行うことが出来た。毎日個別のスキル練習、全体でのスキル練習、設定前に予防的教育法を行うことで、子どもたちの出来る事が増えた。
- ・お母さんたち向けに、岡村がCSPのセッションを1か月行った。お母さんたちも子どもたちも意欲的に参加していた。グルカンでも、CSPを担当したり、お母さんたちとのやり取りを増やすようにした。しかし、グループカウンセリングの参加率がコロナ禍ということもあり、低くなってしまった。家にいることも多くなったので、もう少し参加を促す連絡掛けをするべきだった。
- ・不登校の子どもたちへの支援として、学校支援や学校への付き添いなどを行った。無理に行くのではなく、中休みや自分の興味のある学習から参加していくことで、学校に行ける回数が増えた児童もいた。

〔展望〕

- ・今後もCSPを用いた支援をしていく。具体的なターゲットスキルに基づいたスキル練習の回数を増やし、子どもたちへの褒める回数を増やしていきたい。
- ・グループカウンセリング・CSPへの参加してもらい、子どもたちとの関係性をより良いものにしていくためにも、参加を促す声掛けや電話掛けなどを行うようにし、担任もグループカウンセリングに参加し、お母さんたちの困り感に寄り添った支援をしていく。
- ・不登校の子どもたちの支援として、学校や保護者とのやり取り、また学校支援の担当職員と連携し、一人一人が少しでも自信をもって学校へ行くことが出来るように、今後も連携し、協力していく。

UDL スタディ（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	18	18	18	17	17	17	16	16	16	16	16	16	17
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	21	21	21	20	20	20	19	19	19	19	19	19	20

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	233	219	270	261	203	248	285	218	221	226	223	262	2869

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・最初は不穏な様子で登園する子供が多かったが、フロントで効果的に褒める、スキル練習をチームで強化して子どもの気持ちを受け止めることができた。
- ・対人関係に不安が強い子どもが多かったが構造化を徹底して療育を行い、後半は集団活動もスムーズに行えていた。
- ・グループカウンセリングに参加することで家族との連携をおこなえた。

〔展望〕

- ・家庭支援では事業所内面談を定期的に行い保護者の困り感や育児不安に寄り添って支援する。
- ・子どもの安心、安全な居場所としてチームで行う。
- ・学童期の仲間作りを大切に職員が配慮して支援する。

ライラック（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

（単位 人）

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	19	19	19	19	19	19	17	17	17	17	17	17	18
北区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
西区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	25	25	25	25	25	25	23	23	23	23	23	23	24

(2) 利用延べ人数

（単位 人）

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	219	207	248	246	187	222	235	192	198	206	191	220	2571

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・CSP を用いた支援を行なうことが出来た。毎日個別のスキル練習、全体でのスキル練習、設定前
に予防的教育法を行うことで、子どもたちの出来ることが増えた。
- ・不登校の子どもたちへの支援として学校支援や学校への付き添いなどを行なった。興味のある
学習、見通しの持ちやすい授業から参加していくことで、学校へ行く回数が増えた児童もいた。
- ・グループカウンセリングに参加することで家族とも CSP を行い、予防的教育法や効果的な褒め方を家庭で
も活かせるように支援することが出来た。

〔展望〕

- ・今後も CSP を用いた支援を行っていく。具体的なターゲットスキルに基づいたスキル練習の回数を増やし、
子どもたちへの効果的に褒める回数を増やしていきたい。
- ・家族支援として事業所内相談支援を定期的に行い、保護者の困り感や育児不安に寄り添っていか
く。
- ・不登校の子どもたちの支援として、学校や保護者とのやり取り、又学校支援の担当職員と連携し、子どもた
ちが不安を和らげ、自信をもって学校へ行くことができるように今後も連携していく。

ユスタバ（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

（単位 人）

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
北区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
措置	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21

(2) 利用延べ人数

（単位 人）

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	236	225	275	259	192	250	285	220	223	217	225	260	2867

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・小学校1年生の事業所として、保護者や学校と連携を行い、子どもやその家族をサポートすることが出来た。
- ・措置児の事で児童相談所や家庭、学校と連携して支援を進めることが出来た。
- ・事業所の構造化を進めるに当たって、組織の縦や横の連携を意識して行うことで、クラスの構造化、スケジュールが子ども達にとってわかりやすくなった。

〔展望〕

- ・今後、学年が上がる事により。学習面での困難さが出てくる子どもに対しての支援を事業所間で統一して行っていく必要がある。
- ・コロナウイルスの感染拡大が予想される為、法人の方針に則り、事業所での消毒、感染予防を徹底していく。
- ・年度が変わり職員が変わっても今年行って事業所での構造化、タイムスケジュールを意識して活動を組み立てていく必要がある。

ハーモニー（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	27	27	27	26	26	26	26	26	26	19	19	19	24.5
北区	9	9	9	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8.75
西区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
手稲区	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3.75
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	41	41	41	41	41	41	41	41	41	33	33	33	

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	269	285	318	280	254	291	313	276	249	282	269	287	3373

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・異年齢クラスなので、年齢や発達に合わせた活動を意識した。
- ・子ども同士で手を繋ぐ等、仲間を意識できるような支援をした。
- ・1月から活動場所を移したが、見通しを持ち活動に集中できるよう構造化をした。
- ・スキル練習、予防的教育法、効果的な褒め方を意識して関わりを持つことで、問題行動が減った。
- ・ショートステイ、ヘルパー、クリニック等と連携し、子どもの発達支援や家族支援などを多面的な視点で行った。相談室と連携をとり、子どものQOLの向上のために何が必要であるかを話し合った
- ・学校のクラス担任と電話連絡でやりとりを行い、学校や事業所での様子を話し合い、本児の困り感や家庭での様子等を共通認識し、支援の方向決めを行った。

〔展望〕

- ・子どもの出来る力を信じて、ADLの向上を目指す。
- ・全員がマスクをすることが出来るよう指導する。
- ・事業所内相談支援等で保護者とのコミュニケーションを取る機会を設け、家族との共通認識を持てるよう働きかける。

ピッピ（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

（単位 人）

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	16	16	16	16	16	16	16	17	17	17	17	17	16.4
北区	2	2	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3.5
措置	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2.8
計	20	20	21	23	23	23	23	24	24	24	24	24	22.8

(2) 利用延べ人数

（単位 人）

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	236	220	249	221	197	205	209	202	207	222	195	217	2580

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・出来ていることを褒めることが減っていたが、オブザーベーションしてもらい出来ていることも褒めるようにCSPを効果的に用いて良い関係を築くことを心掛けていった。
- ・活動では、実験を取り入れ理科の要素を楽しみながら考える時間を設けていった。
- ・家族ともCSPを共有し、期待値の設定などを日ごろから行っていき親子関係のストレスが減るように支援を行っていった。

〔展望〕

- ・6時間や行事、放課後活動も多く宿題だけで終わってしまう日もあったため、会話等を意識して気持ちの受け止め等を十分に行っていく。
- ・家族支援では、事業所内面談を定期的に行い、親子の本当の困り感に寄り添っていくことが重要である。
- ・学校との連携では、子どもの目標、期待値などより明確に共有していく必要がある。

シーランチ（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

（単位 人）

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
北区	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
手稲区						1	1	1	1	1	1	1	1
計	20	19	19	19	19	20	20	20	20	20	20	20	20

(2) 利用延べ人数

（単位 人）

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	204	200	229	224	194	218	249	202	205	200	191	226	2542

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・小学校1年生から中学2年生の事業所なので、学校からの帰ってくる時間がまちまちであったが、職員が色々と調整したり、活動を考えることでフロントまでの流れが作れた。予防的教育法を行うことで適応行動が増え、その行動を効果的に褒める場面が多かった。
- ・活動では、外活動でバスでの移動を増やし、積極的にモエレ山、三角山などの山登りを行い、楽しい雰囲気を職員が意識した。
- ・保護者をグループカウンセリングに参加やむぎのこパパの会の参加を促したり、家族ともCSPを行い、予防的教育法や効果的な褒め方を実生活に活かせるように家庭と連携を取ることが出来た。

〔展望〕

- ・学校にも、シーランチにも慣れてきた5月ころからターゲットスキルなどをより意識して、スキル練習することで子ども達の適応行動が増えたと感じた。また、ストレスや学校での疲れた気持ちの受け止め等を十分に行っていく。
- ・家族支援では、事業所内面談を定期的に行い、保護者の困り感や育児不安に寄り添っていく。
- ・保護者と連絡を取り合い、家庭と事業所の関わりを一緒にすることを目標に掲げていたが、もう少し連絡の頻度を増やすことでより一体感を持って支援できたのではと思う。

ヨシア（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	16	16	16	16	16	17	17	17	17	17	17	17	16.5
北区	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
措置										1	1	1	1
計	21	21	21	21	21	22	22	22	22	22	22	22	21.5

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	225	221	257	267	203	248	279	230	241	241	217	256	2885

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・CSPを中心とした関りを行っていき、肯定的な声掛けと褒めを行ってきた。コロナで活動の変更や制限等もあったが構造化を行っていき子どもが動きやすい環境、わかりやすい指示を意識して関わった。
- ・不登校児に対しての支援では、週に一度学校に行くことができるよう保護者との連携を取りながら、子どもたちの経験につながるような支援に入って見通しを持つことができるよう関わった。
- ・保護者へ月に一回のグループカウンセリングの呼びかけを行い、家庭での困り感など聞き、困り感に寄り添いながらCSPでの関わりを中心に話した。

〔展望〕

- ・CSPを用いた支援を行っていき、ターゲットスキルを子どもたちがわかりスキル練習を行っていくことで子どもが肯定され、自己肯定感を高めていくことができるよう関わっていく。
- ・構造化を行っていき、子どもが見通しを持ちやすい活動、環境を整えていき、子どもも大人もわかりやすい場になるように整えていく。
- ・不登校の児童に対しても学習に取り組みやすい環境、関わりを行っていきながら少しずつ学校につながっていくことが出来るよう、学校支援と連携して関わっていく。
- ・面談やグループカウンセリングを通して家庭での困り感などに寄り添いながら関わっていく。

ヨシア〈チェリーブLOSSAM〉(放課後等デイサービス)

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	21	21	21	22	22	23	23	22	22	22	22	22	21.9
北区	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
西区		1	1	1	1	1	1	1	1				0.6
南区							1	1	1	1	1	1	0.5
豊平区		1	1	1									
措置	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2.4
計	31	33	33	34	33	34	35	35	35	34	34	34	33.7

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	228	221	263	261	200	247	287	222	242	237	218	257	2883

8. 評価と展望

[評価]

- ・中、高校生の事業所として療育を行った。新たに契約した子や、特別に配慮が必要な子など、環境になれるために時間がかかる子にはその都度ケースカンファレンスを行い、個別での対応を行った。学習の支援では、国語、英語、数学を中心に行い、その子どもの発達にあった個別の学習を行った。
- ・CSPをベースにした療育プログラムを取り入れ、フロント、ミーティング、社会スキルのスキル練習を取り入れ、毎日行えた。予防的教育法を行い、子どもたちも社会スキルを意識して行動することができるようになった。
- ・毎月のグループカウンセリングを行い、進路の悩みを聞き、アドバイスを提示することが出来た。また、必要に応じて学校と連携して進路指導を行うことが出来た。

[展望]

- ・思春期の悩みや、進路、将来への漠然とした不安を抱えた子ども、保護者の方へ、丁寧に関わり、子どもも保護者も安心感をもてるように支援していく。事業所内相談支援やグループカウンセリングなどで保護者から話を聞く機会を設けていき、ニーズを聞き、即対応していく。
- ・CSPをベースに、子どもが社会スキルを習得できるように支援していく。対話を中心に行い、大人との信頼関係を構築していく。子どもが気持ちを話せるように配慮、支援を行っていく。
- ・発達に合った学習課題を提示して、本人が達成感を持てるように職員が励まし、配慮し、自己肯定感や自信に繋げていけるように職員が一致して支援していく。学習への苦手意識を軽減し、モチベーション上げられるようにしていく。

ヨシア〈スカイブルー〉 第1・2単位 (放課後等デイサービス)

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
北区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
措置	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
計	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	211	222	253	216	192	219	254	210	223	191	200	236	2627

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・構造化が出来、子どもたちが座って活動する流れを定着させたことにより、多くの活動に挑戦することができるようになった。
- ・社会スキルの練習を個別に行えたので、スキル練習を多く行う事ができた。
- ・不登校の子どもたちが安心して登校出来る様に優しく関わり、再統合に向けて進めることができ

〔展望〕

- ・構造化の維持を行い、社会スキルの習得を目指す
- ・学習の時間をしっかりと確保し、楽しみながらも学習時間をとれるようにする

ヨシア〈スカイブルー〉 第3・4単位

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	215	208	256	253	181	233	247	223	220	215	194	225	2670

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・受け入れのフロントから宿題までの流れを構造化し職員で役割分担、声掛けを明確にしたことで、子どもたちが落ち着いて活動出来るようになった。
- ・学校から帰って来て気持ちが不安定な子どももフロントから学習までの間に、10回は褒めるとしてため、フロントや学習後に嫌だった気持ちなどを話し解消することが出来ていた。
- ・要保護家庭の要対協を学校、保育園、児相と定期的に行い情報共有し支援を行った。
- ・緊急電話にかかって来た保護者や子どもからのヘルプに対して、職員で連携し家族支援を行った。

〔展望〕

- ・構造化の見直し・維持を行い、子どもたちにとってわかりやすく前向きに社会スキルを習得していけるよう支援する。
- ・ハイジが子どもたちにとって安心、安全な場所であるように職員が連携し支援する。
下校後、子どもたちがいろいろな感情を抱えて帰ってくる時に、職員が笑顔で迎え入れ、不安や悲しさ心配事やイライラする気持ちなどを職員に話せるような環境・雰囲気づくりをしていく。

野の花（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	14	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13	14
北区	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	21	21	21	21	22	22	22	21	21	21	21	21	21

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	234	213	268	253	204	228	265	216	228	201	205	223	2738

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・スキル練習は助けを求める事を中心に行う事で実際に困った場面でも行う事で問題解決に繋がった。
- ・指示に従う事が難しい子も個別で繰り返し練習することで改善が見られた。
- ・2学年だったがトラブルがある度に職員が間に入る事で公判は仲良く活動が出来た。
- ・集団の中でいじめが起こらないように職員間で徹底して話し合いを行った。
- ・学校の要請があったケースでは他機関と連携会議を持ち情報を共有できた。

〔展望〕

- ・送迎から戻る職員に引継ぎが上手く行かなかったので先を見通してセットアップとフィードバックを行う。
- ・デイサービスだけの様子だけでなく家庭内や学校での様子を把握する事で利用者を深く理解して支援を行う。
- ・CSPの社会スキルを身に付ける事が出来るように繰り返し練習を行う。

トゥモロー（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	13	13	13	13	13	13	13	13	13	12	12	12	12.8
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	14	14	14	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13.8

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	231	229	274	262	224	250	277	216	230	210	214	234	2851

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・昨年度からのクラスの構造を意識し、構造化と設定の維持を大切に行った。
- ・他害、衝動性のある子への肯定的な関わりと落ち着くスキルを意識し、安心感のある活動を行っていくことで他害がほぼ無くなった。

- ・グループカウンセリングを毎月実施し、母の困り感を共有することができた。
- ・給食や掃除の構造化を、グループマネージャーにセットアップしながら見直しをし、効率的に行えるようになった。
- ・夏の八剣山や冬のスキーなど、季節に合わせた活動も行う事ができた。

〔展望〕

- ・子どもたちそれぞれの課題を明確にしていき、個別での関わりも行っていく。
- ・毎月のグループカウンセリングを維持していき、家庭との共有も行っていく。
- ・制作活動や畑作業などの活動も日常活動の中で取り組んでいく。

野の花〔ブラックベリー〕（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
東区	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
北区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
措置	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
計	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	234	223	271	272	221	224	299	245	255	227	230	254	2955

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・中高生が、落ち着いて集中し学習活動に取り組めるように、クラスの構造化を常に行った。
- ・個々の子どもにあった学習プリントづくりをし、子どもの基礎学力を高めるようにした。
- ・学年ミーティングを通して、何でも話し合える仲間作りを目指し、子ども達の交流が深まった

〔展望〕

- ・CSP を用いて予防教育し、確実に学習課題を終えて、学力の向上を目指し、自信をもって学校生活を送れるようにしていく。
- ・将来の自立した生活を目標に、社会スキル・生活スキルを身につけるように、CSP の練習をしていく。
- ・学年ミーティングや活動を通じて、何でも話し合える仲間作りをし、こどもの居場所づくりをしていく。

グリーン（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
東区	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42
北区	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
措置	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	233	219	270	261	203	248	285	218	221	226	223	262	2869

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・長い時間の開所なので、日課を決めることで、退屈する時間のない運営ができた。
- ・ミーティングでは、人の方をみて参加することができた。
- ・職員に助けを求める事で、友人関係や悩みごとの解決につながる練習ができた。

〔展望〕

- ・今年度の日課をもとに、畑活動やボランティア活動を取り入れる。
- ・グループカウンセリングをもとに、自分の気持ちを話す練習と話す機会を作る。

児童デイサービスジャンプレッツ（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	223	209	247	236	209	219	261	220	234	224	212	212	2,706

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・一日の流れをスタッフ全員が理解して、各々の役割を実行していた。
- ・コンサルテーションを受け、支援が難しい子どもへの療育をチームで行なった。
- ・事業所所有の車両が増え、移動や活動の幅が広がった。

〔展望〕

- ・コロナ禍の中でも、活動にバリエーションを出す。
- ・個々の発達に見合った自立課題の設定し、実行する。
- ・グループカウンセリングや事業所内相談支援を通して、保護者とのコミュニケーションを取る

ライオン（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	11	10.6

北区	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	4	5.4
措置	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
計	20	20	20	20	20	20	18	18	18	18	18	18	19

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	249	261	308	281	244	288	312	268	272	247	250	287	3267

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・小学校一年生の事業所なので学校から帰ってきてフロントで受け入れる時に、スキル練習を
すると共に、労いの言葉をかけて、良い関係を築くことを心掛けていった。
- ・活動では、実験を取り入れ理科の要素を楽しみ雰囲気を取り入れながらも考える時間を設け
ていった。
- ・グループカウンセリングに参加することで、家族とも CSP を行い、予防的教育法や効果的な褒め方を実
生活に活かせるように家庭と連携を取ることが出来た。

〔展望〕

- ・学校生活にも慣れ、登所してからの流れも定着してきたが、学校や対人関係の不安感からくる
行動が多く見られうるので、気持ちの受け止め等を十分に行っていく。
- ・家族支援では、事業所内面談を定期的に行い、保護者の困り感や育児不安に寄り添っていく。
- ・学校との連携では、子どもの目標、期待値などより明確に共有していく必要がある。

IV 生活支援部門

日中一時支援事業むぎのこ

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	32	30	41	48	47	51	54	56	57	63	62	64	50.4
前年度	58	72	80	75	75	75	90	88	89	84	102	92	81.7

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	288	280	533	533	469	623	734	604	542	754	732	828	6920
前年度	391	565	692	773	698	654	925	939	704	779	874	808	8802

日中一時支援事業ヨシア

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	18	8	17	18	18	18	18	18	17	16	16	17	16.6
前年度	22	20	20	20	20	20	19	19	19	20	19	19	19.8

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	161	73	154	274	195	266	296	244	241	207	219	269	2599
前年度	194	260	297	273	200	237	318	316	217	194	243	228	2977

日中一時支援事業スタディ

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
計	16	8	17	19	18	19	18	20	20	23	22	22	18.5
前年度	17	17	15	16	15	19	18	19	17	18	16	16	16.9

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	90	55	199	254	175	223	242	200	217	246	230	265	2696

前年度	148	158	174	184	154	189	208	189	167	182	181	160	2094
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

日中一時支援事業 セーブネス

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	25	23	33	38	38	37	38	39	41	45	44	43	37.0
前年度	38	42	38	35	36	36	35	36	36	38	36	38	37.0

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	169	171	324	421	336	408	486	405	369	423	413	440	4365
前年度	358	419	432	425	383	361	480	455	337	397	412	365	4824

日中一時支援事業 みかほ

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	4	8	9	10	11	10	10	12	14	13	14	16	10.9
前年度	9	41	65	105	91	105	114	117	122	119	111	153	1152

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	169	171	324	421	336	408	486	405	369	423	413	440	4365
前年度													

ショートステイむぎのこ

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	181	185	186	189	193	195	195	196	196	197	201	208	193.5
北区	54	54	56	56	59	62	66	66	66	67	68	68	61.8
西区	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0
南区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
白石区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0

豊平区	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	2.6
中央区	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13	13	13	12.7
手稲区	6	6	6	6	7	8	9	9	9	9	9	9	7.8
厚別区	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0.5
措置	9	9	9	10	10	11	11	13	13	14	14	13	11.3
計	273	277	280	284	293	301	307	310	310	313	318	324	299.2

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	175	207	266	241	221	275	282	252	224	211	280	322	2956

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・新型コロナウイルス感染症予防の観点から、手洗い・手指消毒・マスク着用・健康管理及び検温等の健康観察・室内換気・室内消毒・食事介助時のゴーグル着用を徹底して行い、感染防止に努めた結果、職員・利用者さんともに様々な感染を防ぐことができた。
- ・みかほ整肢園を利用している重心のお子さんの契約と利用が増えたため、食形態や介助の方法についてみかほの職員や栄養士、看護師と連携を取って受け入れることが出来た。
- ・毎日の打ち合わせで CSP の効果的な褒め方とアンガーマネージメントの練習を行い、利用者さんに肯定的に関わることや安全に過ごすことで、利用者さんの生活やリズムが安定していった。

〔展望〕

- ・感染予防対策を徹底し利用者さんと職員の安全を守る。
- ・重心のお子さんの利用が増えることが予想されるため、利用者さんのニーズを聞き取り、個々に対応できるように引き続き関係部署と連携を取り支援する。
- ・職員全員が CSP を用いて利用者さんと肯定的に関わり、逃げる練習・助けを求める練習・落ち着く練習を日々行い、安心・安全で明るい支援を行う。

ショートステイホームピース

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	194	200	200	201	204	205	205	205	207	207	210	217	205
北区	52	53	57	57	60	60	60	60	62	62	62	62	59
西区	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
南区	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1.7
白石区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
豊平区	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
中央区	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置	11	11	11	11	11	12	12	14	14	15	15	15	12.7
計	278	285	289	290	297	299	299	301	303	304	307	314	297

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	292	328	417	361	347	416	455	377	222	274	376	412	4277

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・コロナのリスクが高まり、消毒・手洗い・換気・マスクの着用・検温等徹底し、利用者さんと職員の健康管理に努めた。
- ・児童相談所からの一時保護委託や要保護家庭の緊急の依頼が増え、速やかに対応した。各機関や各部門と連携して随時支援会議を行い、安全確保と支援内容の向上に努めた。一時保護の後は、家庭引取りや里親委託、FHへの委託、入所等に繋げる事が出来た。
- ・CSP やアンガーマネジメントを学習して練習する事で、肯定的に関わり、利用者さんも職員も落ち着いて、明るく安全に過ごす事が出来た。

〔展望〕

- ・引き続き、感染予防対策を徹底して利用者さんと職員の安全を守って行く。
- ・職員全員が CSP を用いて利用者さんと肯定的に関わり、逃げる練習・助けを求める練習・落ち着く練習を日々行い、安心・安全で明るい支援を行って行く。
- ・利用者さんも保護者の方も、利用して良かったと思って頂くように、職員が連携して常に明るく肯定的な対応に心がける。衛生・身だしなみ・環境整備に留意する。

むぎのこ保育園

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	19	18	20	19	22	22	22	23	23	23	24	24	21.5
北区	4	4	4	5	5	4	3	3	3	3	3	3	3.6
西区	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.9
手稲区					1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	24	24	26	26	30	29	28	29	29	29	30	30	27.8

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	405	366	452	522	422	515	531	466	474	490	486	576	5705

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・企業主導型保育事業として5年目を迎えるが前年度発達支援事業や地域の幼稚園などの移行により35名の定員だったが4月には24名のスタートだった。
- ・一年を通して定員確保が難しかった。
- ・0歳児から4歳児までのクラス編成であったが各クラスは少人数であったためより細かく安全な保育ができた。
- ・前年度引き続き日誌、日報の管理整備や健康診断、毎日の視診、毎日のクラスのねらいや評価などを行い日々子どもたちの対応を行うことができた。
- ・0,1歳児の5分ごとの睡眠チェック、2歳以上の10分ごとのチェックなどを行い、SIDの予防に努めることができた。それぞれの年齢に応じた園庭遊び、公園遊び、設定遊びなどを工夫し、CSPを用いて効果的にほめる、予防的教育法で関わる事ができている。
- ・月一回の保護者とのグループカウンセリングを開催して

〔展望〕

- ・グループカウンセリングで保護者とのコミュニケーションを取り兄弟児クラスとの連携を図り親子支援を行なっていく。
- ・乳児の受け入れが多くなっていくため、さらにSIDSの予防に努めていく。
- ・会議やS/Vを充実させて職員間の共通理解を図り保育の質の向上を図っていく。
- ・SCALEを大切に安全かつ安心の保育所運営をする。

V 成人部門

ジャンプレッツ（生活介護）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	31	31	31	31	31	31	32	32	32	32	32	32	31.5
北区	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
西区	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
手稲区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
清田区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
厚別区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
江別市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
羽幌町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	50	50	50	50	50	50	51	51	51	51	51	51	50.5

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	883	819	1031	989	801	930	1068	881	895	857	817	1011	10982

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・2020年度の個別支援計画は2019年度終了評価で利用者本人、保護者同席のもと面談。それを基に検討会議を行い、個別支援計画を策定。その後利用者、保護者同席のもと2020年度個別支援計画を説明し、同意を得る。（9月に同様に後期個別支援計画を行った。）

(2) 主な日中活動

- ・作業活動（畑作業・洗車作業・室内清掃・施設外清掃・除雪作業・ビーズ作業・ペンキ）そして3つのグループ（ペンキグループ・キッチンガーデニンググループ・ガーデニンググループ）に分かれ活動を行なった。
- ・スポーツ活動（ソフトボール・歩くスキー・卓球・スケート・ボッチャ、風船バレー等）
- ・レクリエーション（フットケア・ハンドケア等）
- ・サークル活動（英会話、フラダンス、太極拳、映画・ヨガ、温泉サークル）
- ・行事（お花見・日帰りキャンプ・スポーツ大会・クリスマス会など）

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	英会話・フラダンス・入所式・歓迎会
5月	英会話・フラダンス・お花見
6月	英会話・フラダンス
7月	英会話・フラダンス
8月	英会話・フラダンス・日帰りキャンプ（中小屋小学校）
9月	英会話・フラダンス・キャンプ（中小屋小学校）
10月	英会話・フラダンス・スポーツ大会
11月	英会話・フラダンス・三角山登山
12月	英会話・フラダンス・クリスマス会
1月	英会話・フラダンス・成人式
2月	英会話・フラダンス・豆まき
3月	英会話・フラダンス・ひな祭り

3. 給食業務

給食提供形態	1日1食 毎日提供 食事時間 11:30~13:00 食事提供に当たって、利用者の心身の状況や嗜好に合わせて食事の提供を行うとともに、年齢、障害の特性に応じた適切な栄養量及び内容の食事提供を行うため上記の栄養士を配置し、必要な栄養管理を実施。
給食費	650円

4. 医療体制

- ・ 嘱託医田村ドクター、平尾ドクターによる毎年1~2回の生活習慣予防検診の実施
- ・ 年2回の健康診断の実施（6月・10月）
- ・ 看護師・スタッフの連携による健康管理・指導
- ・ 定時薬・臨時薬の準備と保管・服用管理
- ・ 栄養士による食事管理

5. 施設設備管理業務

- ・ エレベーター（リモート点検毎月・技術員点検4回・法定検査年1回）
- ・ 防災設備（法定点検年2回）
- ・ 施設内ワックス（1回）

6. 防災対策

(1)防火管理者の状況

職名	施設長	氏名	高田 隆一	選任届出年月日	平成21年4月1日
----	-----	----	-------	---------	-----------

(2)消防計画の状況

当初届出年月日	2002年3月31日	最終変更届出年月日	2020年4月15日
---------	------------	-----------	------------

(3)消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	2019年7月31日	年 月 日	2020年2月17日	年 月 日
消防署への報告	有・無	整備点検記録の有無		有・無

(4)所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有・無
立入検査年月日	年 月 日
改善指示事項の有無	有・無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5)避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	みずどり公園	予定地	伏古北小学校
施設からの距離	10M	施設からの距離	200M
予定地までの所要時間	約1分	予定地までの所要時間	10分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
2・4・17	避難・消火・通報・救出・その他	2・10・16	避難・消火・通報・救出・その他
2・5・15	避難・消火・通報・救出・その他	2・11・20	避難・消火・通報・救出・その他
2・6・19	避難・消火・通報・救出・その他	2・12・18	避難・消火・通報・救出・その他
2・7・17	避難・消火・通報・救出・その他	3・1・15	避難・消火・通報・救出・その他
2・8・21	避難・消火・通報・救出・その他	3・2・19	避難・消火・通報・救出・その他

2・9・18	避難・消火・通報・救出・その他	3・3・19	避難・消火・通報・救出・その他
--------	-----------------	--------	-----------------

(2) その他の防災対策

- ・自動通報装置の設置
- ・セコムとの連携・利用者の防災センター体験による防災意識高揚
- ・AEDの設置
- ・警備日誌の励行
- ・3日分の食料、水の備蓄、災害時拠点としての防災・災害対策用品の備蓄
- ・町内会防災訓練参加
- ・災害時指定避難場所への避難（伏古北小へ（年1回））

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス管理責任者	常 勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
生活支援員	常 勤	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
生活支援員	非常勤	21	23	23	23	23	26	26	26	26	26	26	26
看護師	常 勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
栄養士	常 勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員	非常勤	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
合計		37	40	40	40	40	43	43	43	43	43	43	43

※サービス特性によって「児童発達管理責任者」「サービス提供責任者」と書き換える。

8. 実習生・介護等体験の受入

※実際に事業所で受け入れた記録を入力

受入学校名		実習期間	人数
実習生	札幌国際大学人文学部心理学科	2/22～3/5, 2/8～2/19, 3/8～3/19	3人
	せいとく介護こども福祉専門学校	10/19～11/2	1人

9. 職員研修

※実際に事業所職員が参加した研修等(研修報告のあるもの)を記入してください

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/1		法人研修	全職員
4/18		法人研修	全職員

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/15～18	株式会社 詩恩	行動援護従事者養成研修	1人
5/22,23	北海道知的障がい福祉協会	全道施設長セミナー	1人
5/23,24, 6/11,12	社会福祉法人 はるにれの里	行動援護従事者養成研修	1人
6/21	札幌市社会福祉協議会	新任支援員研修会	2人
7/4,5	北海道知的障がい福祉協会	北海道知的障がい関係支援員研修	2人
7/13,14	堀健一	CSP 管理者研修事前研修	1人
7/22,23	北海道知的障がい福祉協会	全国的障がい関係施設長等会議	1人
7/13,14	北海道ファミリーホーム協議会	ファミリーホーム研究大会	1人
8/1	北海道知的障がい福祉協会	権利擁護セミナー	2人
8/30	札幌市社会福祉協議会	ニューパワー全体セミナー	4人

9/28,29	堀健一	CSP 事前検定	1 人
9/27	北海道知的障がい福祉協会	災害対策研修会	1 人
10/7,8,9	堀健一	CSP 管理者検定	1 人
10/8,9	北海道知的障がい福祉協会	全道知的障がい関係職員研究大会	2 人
10/12・13	社会福祉法人侑愛会	5 法人ジョイントセミナー	1 人
10/15,16	北海道 CM ネット	相談支援従事者研修	1 人
11/17,18	全国児童発達支援協議会	CDS・japan	1 人
12/1～3	障がい者支援施設 三気の里	熊本三気の里かくたつ研修	1 人
12/3	札幌市食品衛生協会	ノロウイルス食中毒予防講習会	1 人
12/10,11	日本知的障がい福祉協会	日中活動支援部会全国大会北海道大会	2 人
12/19	特定非営利活動法人きなはれ	児童発達支援管理責任者更新研修	1 人
1/20～23	株式会社 詩恩	行動援護従事者養成研修	2 人
2/7,8 2/14,15	社会福祉法人 はるにれの里	行動援護従事者養成研修	1 人
2/17,18	北海道知的障がい福祉協会	全道施設長研修会	1 人

10. 諸会議の開催※会議録必須

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
支援員会議	毎月第 1.3 水曜日	24 回		管理者・サビ管・生活支援員・看護師	17 名	
各種委員会	毎月第 4 水曜日	12 回		委員会担当職員	17 名	
職員会議	毎月第 4 水曜日	12 回		管理者・サビ管・生活支援員		
各部会議	毎月第 2 水曜日	12 回		管理者・サビ管・生活支援員		
マネージャー会議	随時	29 回		マネージャー	2 名	
リーダー会議	月 1 回	12 回		マネージャー・リーダー	3 名	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法

12. 評価と展望

〔評価〕

- ・利用者支援では、コモンセンスペアレンティングを中心に、全職員が適切な場面で各教育法を実践ができるよう支援した。共通言語専門的な関わりで利用者との関係を築いた。
- ・強度行動障害等などの対応が難しい利用者には、かくたつ体操や歯磨きや食事面など生活の細かな部分を調整し、利用者にわかりやすい生活を送ることが出来るように配慮した。
- ・家族支援として家族会 C S P を週に一回開催し、困り間に対して話が出来る場所、実際にどのように支援したらよいかを伝え支援した。

〔展望〕

- ・内職の活動を定期的に入れることで利用者の作業能力の向上を図りたいと考えている。
- ・家族支援として、家族会 C S P を行ったが、参加者に偏りがあったので、幅広い保護者の方が参加出来るようにしていく必要がある。
- ・マスクや手洗いを全員が出来るように支援を行っていく。また、個別に支援が必要な利用者に対しては自立課題を作り、無理がないように身に着く事が出来るように支援していく。

ジャンプレッツ（就労移行）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	13	13	13	13	13	14	14	15	15	15	15	17	14.2
豊平区								1	1	1	1	1	0.4
計	13	13	13	13	13	14	14	16	16	16	16	18	14.6
前年度	9	9	8	7	7	8	9	11	11	11	11	12	9.4

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	158	117	130	145	122	140	136	120	116	129	105	144	1562
前年度	111	116	119	103	93	103	137	167	167	176	165	170	1627

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

・2020年度の個別支援計画は中間評価で利用者本人と面談。それを基に検討会議を行い、個別支援計画を策定。その後利用者や保護者に作成した個別支援計画を説明し、同意を得る。(概ね3ヶ月ごとに同様に個別支援計画の見直しを行った。)

(2) 主な日中活動

- ・調理室での作業：食器の準備、調理業務(食材の切り作業、味付け、炒め作業等)、食事の配達業務、食器洗浄、調理室清掃作業等、ジャンプレッツ内清掃
- ・麦の子発達クリニックの清掃

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	入所式
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	スポーツ大会
11月	三角山登山
12月	
1月	成人式
2月	
3月	

3. 給食業務

給食提供形態	1日1食 毎日提供 食事時間 11:30~13:00 食事提供に当たって、利用者の心身の状況や嗜好に合わせて食事の提供を行うとともに、年齢、障害の特性に応じた適切な栄養量及び内容の食事提供を行うため栄養士を配置し、必要な栄養管理を実施。
給食費	650円

4. 健康管理業務

(1) 医療体制

- ・嘱託医田村ドクター、平尾ドクターによる毎月1~2回の生活習慣予防検診の実施

(2) 健康管理

- ・年2回の健康診断の実施（6月・10月）
- ・看護師・スタッフの連携による健康管理・指導
- ・定時薬・臨時薬の準備と保管・服用管理
- ・栄養士による食事管理

5. 施設設備管理業務

- ・エレベーター（リモート点検毎月・技術員点検4回・法定検査年1回）
- ・防災設備（法定点検年2回）
- ・施設内ワックス（1回）

6. 防災対策

(1) 防火管理者の状況

職名	施設長	氏名	高田 隆一	選任届出年月日	平成 21 年 4 月 1 日
----	-----	----	-------	---------	-----------------

(2) 消防計画の状況

当初届出年月日	2002 年 3 月 31 日	最終変更届出年月日	2020 年 4 月 15 日
---------	-----------------	-----------	-----------------

(3) 消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	2019 年 7 月 31 日	年 月 日	2020 年 2 月 17 日	年 月 日
消防署への報告	有 ・ 無		整備点検記録の有無	
	有		有	

(4) 所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有 ・ 無
立入検査年月日	年 月 日
改善指示事項の有無	有 ・ 無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5) 避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	みずどり公園	予定地	伏古北小学校
施設からの距離	10M	施設からの距離	200M
予定地までの所要時間	約1分	予定地までの所要時間	10分

(6) 非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
2・4・17	避難・消火・通報・救出・その他	2・10・16	避難・消火・通報・救出・その他
2・5・15	避難・消火・通報・救出・その他	2・11・20	避難・消火・通報・救出・その他
2・6・19	避難・消火・通報・救出・その他	2・12・18	避難・消火・通報・救出・その他
2・7・17	避難・消火・通報・救出・その他	3・1・15	避難・消火・通報・救出・その他
2・8・21	避難・消火・通報・救出・その他	3・2・19	避難・消火・通報・救出・その他
2・9・18	避難・消火・通報・救出・その他	3・3・19	避難・消火・通報・救出・その他

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス管理責任者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
職業指導員	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
就労支援員	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
生活支援員	非常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

調理員	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

8. 実習生・介護等体験の受入

・なし

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/2	社会福祉法人麦の子会	法人研修	4名
4/14	社会福祉法人麦の子会	法人研修	1名

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
11/22	北海道社会福祉協議会	栄養士専門研修	1
3/6	札幌市自立支援協議会	就労系福祉サービス事業所意見交換会	1

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考
		定例	臨時			
支援員会議	毎月第1・3水曜	24回		管理者・サビ管・支援員	3名	
ケース会議	毎月第4水曜	12回		管理者・サビ管・支援員	3名	
各種委員会	各委員会規定日	12回		委員会担当職員	3名	
職員会議	毎月第4水曜日	12回		管理者・サビ管・支援員	3名	
各部会議	毎月第2水曜日	11回		管理者・サビ管・支援員	3名	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
	なし	

12. 評価と展望

2020年度は、一般就労に結び付いた利用者さんはいなかった。昨年度に比べ、4月から利用者が減少したが、対策を立てるのが遅れしばらく定員割れの利用率になってしまった。これは、全体の経営を考慮せずに進めてしまった部分であった。改善策として、年度別の利用井予定者を策定し、定員を満たない場合は、相談室と連携し、就労希望者を紹介いただき、常に定員以上の利用者が通所できるようなシステムを策定。11月より進め、利用率も改善された。難しい支援として、欠席がちな利用者には毎日連絡し心身の体調を把握し通所を促すなど、より利用者さんに合わせた作業を提供するなどの対策を講じたが、もっと個人的にスケジュールを立て、目標をわかりやすく具体的にし、達成できるシステムを構築しなければと考える。2021年度の課題である。

生活介護同様、職員がCSPを身につけ基礎的な部分を学び効果的に褒め、予防教育を行うことで支援に活かしている。就労に向けて、社会スキルを学び、新たな職場でも社会スキルを般化できるよう支援していく。利用者さんの生活環境は様々であるため、作業のスキルアップだけではなく、子育てについての悩み、日々の生活の不安などの相談や、生活リズムが安定せず通所する事が難しいなどの相談など、生活支援、家族支援を必要とされる方が多い。精神的な問題や不安を抱える方々が多い。自宅から出る事が出来ない利用者の方もいる。毎日の電話連絡等、また個別に話す機会を設け、心理士によるカウンセリングを定期的に受けるなど、コミュニケーションする時間をできるだけ増やし、職員が利用者さんの思いを丁寧に聞く事で悩みや不安の軽減を図れるよう配慮する必要がある。

仕事のスキル（ハード面）も大切だが、生活に必要な社会スキルなど（ソフト面）の支援も大変重要になってきている。個別に面談を行なっていく事で就労支援だけではなく、生活面の不安や心配事などを相談し、少しでも解消することで、日々の通所の安定を図り充実した生活ができるよう今後も支援を続けていく。

ハーベストガーデン(生活介護)

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1
計	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	27	26

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	568	549	634	606	510	580	649	565	585	562	539	659	7006

3. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・2020年度の個別支援計画は2019年度終了評価で利用者本人、保護者同席のもと面談。それを基に検討会議を行い、個別支援計画を策定。その後利用者、保護者同席のもと2020年度個別支援計画を説明し、同意を得る。(9月に同様に後期個別支援計画を行った。)

(2) 主な日中活動

- ・スポーツ(歩くスキー・ソフトボール・マラソン他)/勉強/ウォーキング/ショッピング
町内清掃/ガーデニング/畑作業/フラダンス/アイロンビーズ/洗車作業/ドライブ/
ボイストレーニング/フラワーアレンジメント/良い結果買い物

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	入所式・歓迎会・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
5月	花見・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント・
6月	フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
7月	フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
8月	フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
9月	フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント・日帰りキャンプ
10月	スポーツ大会・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
11月	フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
12月	クリスマス会・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
1月	成人式・歩くスキー・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
2月	豆まき・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント
3月	ひな祭り・フラダンス・ボイストレーニング・フラワーアレンジメント

8. 評価と展望

[評価]

- ・コロナ禍で始まり、外部施設への活動と、外販の大幅な自粛で活動内容が狭まってしまった。そんな中、室内でも出来る活動を増やし工夫をしていく事で、利用者さんが楽しめる事を探していった。また感染予防を強化するために、マスクの徹底や、時間を決めて消毒に取り組んだ。
- ・職員間では毎日のCSPのスキル練習を行う事で、確実にスキルが上がったと感じる。そのことにより利用者さんの社会スキルも上がり、活動がしやすくなった。
- ・新人職員と毎日の振り返りを行う事で、1年間フォローする事が出来た。

・SV体制をとり、良い事や難しかった事も全体で共有する事で職員同士も一致して支援を行う事ができた。

〔展望〕

- ・引き続き、感染防止を行い、マスクの徹底、換気、消毒など出来る事を確実にやっていく。そのことで利用者さんたちの安全を守っていく。
- ・構造化や、スケジュールをよりわかりやすくし、利用者さんの適正に配慮しながらも、挑戦、達成感を感じられる支援を行うとともに、CSPによるポジティブな関りを通して、利用者さん本人が自己肯定感を感じられるよう支援を進める。
- ・自己選択、自己決定を意識して、活動内に出来る事を増やしていく。

トリニティ（生活介護）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	20	20	21	23	23	23	23	23	23	23	22	22	22.1
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
中央区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	22	22	23	25	25	25	25	25	25	25	24	24	24.1

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	417	378	458	467	417	492	546	465	462	420	408	497	5427

3. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・2020年度の個別支援計画は2019年度終了評価で利用者本人、保護者同席のもと面談。それを基に検討会議を行い、個別支援計画を策定。その後利用者、保護者同席のもと2020年度個別支援計画を説明し、同意を得る。(9月に同様に後期個別支援計画を行った。)

(2) 主な日中活動

- ・スポーツ(歩くスキー、ソフトボール・マラソン他)/勉強/ウォーキング/ショッピング/町内清掃/ガーデニング/畑作業/フラダンス/洗車作業/清掃作業/室内トレーニング

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	入所式・歓迎会・英会話・フラダンス
5月	花見・英会話・フラダンス
6月	英会話・フラダンス
7月	円山動物園・英会話・フラダンス
8月	BBQ・英会話・フラダンス
9月	カヌー・英会話・フラダンス
10月	スポーツ大会・ハロウィンパーティー・英会話・フラダンス
11月	三角山登山・英会話・フラダンス
12月	クリスマス会・英会話・フラダンス
1月	成人式・歩くスキー・英会話・フラダンス
2月	豆まき・英会話・フラダンス
3月	ひな祭り・英会話・フラダンス

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・支援の基本として、CSP の効果的なほめ方で関係性を築き、問題行動に対しても適応行動のを 練習しほめるサイクルを職員間で徹底した。そして日々の社会スキルの練習を行い、利用者さんが適切に許可を得ることできるようになり、コミュニケーションで意思を伝えることが増えてきた。
- ・新型コロナウイルス感染防止のため活動を分けて少人数で行い、行事もできない中でできることを考え、利用者さんが楽しめる行事を職員間で話し合い実行することが出来た。
- ・SV を毎週行うことで、良かったことや難しかったことを職員間で共有し、必要なことを考え支援に活かせるよう話し合いを行うことが出来た。

〔展望〕

- ・引き続き新型コロナウイルス感染防止を徹底し、手洗い、消毒、マスクの着用ができるよう徹底して行っていく。
- ・室内で過ごす時間が増えているが、活動内容が固定されていることが多い。活動内容を充実させ、利用者さんが活動を通して成長できるよう支援していきたい。

ホワイトハウス（グループホーム）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	47	47	47	47	47	51	51	51	52	52	52	52	49.7
北区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
西区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
豊平区	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4.75
厚別区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
清田区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
札幌市外	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	61	61	61	61	61	65	65	65	66	65	65	65	

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	1655	1623	1711	1707	1648	1767	1825	1746	1827	1728	1682	1867	20786

2. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス管理責任者	常 勤	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
世話人	常 勤	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
世話人	非常勤	19	21	21	21	21	22	23	23	23	22	22	22
生活支援員	常 勤	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
生活支援員	非常勤	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5
看護師	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		44	46	46	46	46	47	49	49	49	48	48	48

3. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・2020年度の個別支援計画は2019年度終了評価で利用者本人、保護者同席のもと面談。それを基に検討会議を行い、個別支援計画を策定。その後利用者、保護者同席のもと

2020年度個別支援計画を説明し、同意を得る。
(9月に同様に後期個別支援計画を行った。)

(2) 主な日中活動

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	誕生会
5月	誕生会
6月	誕生会
7月	誕生会
8月	誕生会
9月	誕生会
10月	誕生会
11月	誕生会
12月	誕生会
1月	誕生会
2月	誕生会
3月	誕生会

(本年度は外活動の行事を行なわなかった)

5. 防災対策

(1)防火管理者の状況

職名	防火管理責任者	氏名	内山 武人	選任届出年月日	2015年9月
----	---------	----	-------	---------	---------

(2)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
2020・4・17	避難・消火・通報・救出・その他	2020・10・16	避難・消火・通報・救出・その他
2020・5・15	避難・消火・通報・救出・その他	2020・11・20	避難・消火・通報・救出・その他
2020・6・19	避難・消火・通報・救出・その他	2020・12・18	避難・消火・通報・救出・その他
2020・7・17	避難・消火・通報・救出・その他	2021・1・15	避難・消火・通報・救出・その他
2020・8・21	避難・消火・通報・救出・その他	2021・2・19	避難・消火・通報・救出・その他
2020・9・18	避難・消火・通報・救出・その他	2021・3・19	避難・消火・通報・救出・その他

6. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
グループホーム会議	毎週月曜	52回		管理者・サビ管 世話人・生活支援員	19名	5月から男女別で行なった

8. 評価と展望

[評価]

- ・2020年度は9月に4名定員のホームが1箇所新設、11月には1ホームで1名定員増加とサテライトを1箇所新設して、総定員数が67名となった。
- ・キャンプやスポーツ観戦などの屋外活動は自粛する事とした。ヘルパーの利用も日用品の買い物を中心として、余暇活動での外出は自粛した。
- ・今年度も新人職員3名が生活介護事業所とグループホームを兼務しており、日中の活動を把握してグループホームでの支援に繋げていた。

[展望]

- ・コロナ禍の状況で衛生面の支援を第一に考えて、利用者が安心して安全に暮らせるように消毒や換気、手洗い、マスク装着などの支援を引き続き行っていく。
- ・求人広告を定期的に出しているが特に男性の日勤希望者が少なく、今後の人員確保をどうするかが大きな課題となっている。

ショートステイホームカリブ

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	19	19	19	19	19	15	15	15	15	15	15	15	16
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
西区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
厚別区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	25	25	25	25	25	21	21	21	21	21	21	21	22

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	21	18	27	29	25	20	22	19	20	19	18	23	261

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・ジャンプレッツ・ハーベストガーデン・トリニティと連携をとり、短期入所計画を策定している

(2) 主な日中活動

- ・起床・洗面・着替え・朝食・送迎
- ・夕食・入浴・くつろぎ・睡眠

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

- ・特になし

3. 施設設備管理業務

施設設備の修理・工事	特になし
施設設備の保守点検委託業務	防災設備 (法定点検年2回)
施設設備の管理業務	① 外回り清掃 (随時) ② 除雪 (随時)

4. 防災対策

(1) 防火管理者の状況

職名	防火管理責任者	氏名	内山 武人	選任届出年月日	2015年9月
----	---------	----	-------	---------	---------

(2) 非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
R2・4・17	避難 ・消火・通報・救出・その他	R2・10・16	避難 ・消火・通報・救出・その他
R2・5・13	避難 ・消火・通報・救出・その他	R2・11・19	避難 ・消火・通報・救出・その他
R2・6・18	避難 ・消火・通報・救出・その他	R2・12・17	避難 ・消火・通報・救出・その他
R2・7・16	避難 ・消火・通報・救出・その他	R3・1・14	避難 ・消火・通報・救出・その他
R2・8・25	避難 ・消火・通報・救出・その他	R3・2・18	避難 ・消火・通報・救出・その他
R2・9・17	避難 ・消火・通報・救出・その他	R3・3・19	避難 ・消火・通報・救出・その他

(2) その他の防災対策

- ・住居内外点検

5. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス管理責任者	常勤	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
世話人	常勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
世話人	非常勤	19	21	21	21	21	22	23	23	23	23	23	23
生活支援員	常勤	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
生活支援員	非常勤	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5
看護師	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		44	46	46	46	46	47	49	49	49	49	49	49

6. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
グループホーム会議	毎週月曜	52回		管理者・サビ管 世話人・生活支援員	19名	5月から男女別で行った。

7. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
	なし	なし

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・CSP勉強会を行なう事で各支援員のスキルアップを図り、効果的な褒め方や予防的教育法を用いて利用者の支援を行った。
- ・キャンプやスポーツ観戦などの屋外活動は自粛する事とした。ヘルパーの利用も日用品の買い物を中心として、余暇活動での外出は自粛した。
- ・アンガーマネジメントの一環として、職員それぞれの「落ち着きプラン」を掲示することにより落ち着く行動の練習やその場を離れる練習を行い反射的に反応してしまう事がないように職員全員で意識の向上を図った。

〔展望〕

- ・コロナウイルス等の感染拡大が予想される為、法人の方針に則り、事業所での検温、体調管理、消毒、感染予防を徹底していく。
- ・関わりの難しい利用者に関してはその都度、各通所と連絡、連携してチームでの支援を行って行く。
- ・発作のある利用者もいる為、安心、安全な生活が出来るように支援を行って行く。

VI 社会的養護部門

ガブリエルホーム

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
措置	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
一時保護	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0.67
計	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6.7
前年度	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	202	211	188	187	217	210	217	197	186	186	168	186	2355

2. 職員配置状況

(人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者兼養育者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
養育補助者	常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
養育補助者	非常勤	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4
合計		7	7	7	6	7	7	7	7	7	7	7

3. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・児童自立支援計画が児童相談所より届き確認した。
- ・発達支援プランを作成した。

(2) 主な日中活動

- ・整容・朝食・出発準備・おやつ・夕食・入浴・公園遊び

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	カーペンターズ、お誕生会、避難訓練
5月	小学校運動会、お誕生会、避難訓練
6月	避難訓練
7月	避難訓練
8月	避難訓練
9月	運動会、避難訓練
10月	お誕生会、避難訓練、カーペンターズ
11月	生活発表会、避難訓練、学習発表会
12月	もちつき、お誕生会、避難訓練、クリスマス会
1月	お正月会、避難訓練
2月	豆まき、避難訓練
3月	ひなまつり、お誕生会、避難訓練

8. 評価と展望

〔評価〕

- ・コロナ過に於いて、学校の休校や外出制限等で子ども達も落ち着かない、不安と言った部分もあったが、小学校や中学校、デイサービスなどと連携し子どもの状態をお互いに共有し配慮していくことが出来た。
- ・色々な場面でその子どもに応じた課題を見つけて、予防やスキル練習をして関わり、できる事が増えて行った。子どもたちの話をできるだけ聞いて、気持ちを尊重し安心して生活できるようになってきている。
- ・遊びに出かける事が極端に減ったため、ホーム内やホームの周りでの遊びが中心となったが、ガーデニングや自転車での遊び、冬は近所の公園の山に、感染対策をしてそり滑りに行ったり、コロナ過の中で楽しむことが出来た。

〔展望〕

- ・コロナがまだ収まらない状況の中で、マスク着用、手洗い消毒、ホーム内消毒を徹底して行っていく。
- ・小学校、デイサービス等とも連携して子どもが安心して安全な生活を送れるように支援していく。
- ・子ども達には、引き続き予防とスキル練習、効果的な褒め方を使って子どもたちが落ち着いて生活できるように養育者が支援していく。
- ・令和3年4月に新しくグレープ、ミモザが開所となった。ベアテルホーム、ガブリエルホームと合わせて4ホームになり、今まで以上に連携していくことが可能となったので、今後4つのホームで協力し合って子どもたちを支援していく。

ベアテルホーム

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
措置	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
計	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6.00
前年度	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	168	186	2190

2. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者兼養育者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
養育補助者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	非常勤	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4
合計		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	6

3. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・児童自立支援計画が児童相談所より届き確認した。
- ・発達支援プランを作成した。

(2) 主な日中活動

- ・整容・朝食・出発準備・おやつ・夕食・入浴・公園遊び・上映会

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	カーペンターズ、避難訓練
5月	キャンプ、小学校運動会、お誕生会、避難訓練
6月	バザー、避難訓練、お誕生会
7月	誕生会、避難訓練
8月	誕生会、避難訓練、お誕生会
9月	運動会、避難訓練
10月	避難訓練、カーペンターズ
11月	生活発表会、避難訓練、お誕生会、学習発表会
12月	もちつき、お誕生会、避難訓練、クリスマス会
1月	お正月会、お誕生会、避難訓練
2月	豆まき、避難訓練、お誕生会
3月	ひなまつり、避難訓練

8. 評価と展望

[評価]

- ・ 小学校やデイサービスと連携し、子どもの状態をお互いに把握したり、デイサービスでの活動に対して、家でもスキル練習をしたりしてきたことや、子どもたちの話を聞いてもらうことで落ち着いてきている
- ・ カウンセリングを子どもたちが受けさせてもらうことによって子どもたちの希望も聞けて、実現できたことがあった
- ・ 同級生の子どもたちの関係性が悪くなってしまったことで修復しようと配慮してきたが、難しかった

[展望]

- ・ 中学校、小学校、デイサービスと連携し新しい環境になるので、子どもが安心して生活を送れるように支援していく
- ・ 引き続き、子どもたちにカウンセリングを受けさせてもらうことによって子どもたちの希望や要望など把握していく。また引き続きCSPを勉強し、褒めることを中心に、現在の子どもたちにあった結果を工夫して考えていく。
- ・ コロナがまだ蔓延している状態なので、マスク着用、手洗い、手指消毒、ホームの消毒など大人だけでなく、子どもたちにも徹底するように働きかける。
- ・ 2021年度より、新しいホームグループ、ミモザが開所になるので、ガブリエルホームも含め4ホームで連携し子どもたちを支援していく

VI 医療・地域・相談部門

相談室セーボネス

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	419	425	440	451	455	471	483	503	511	524	530	541	479
北区	50	50	52	53	53	53	53	56	57	57	57	58	54
西区	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
南区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
白石区	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
豊平区	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
中央区	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
手稲区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	4
清田区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
市外	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1
計	498	505	523	535	539	555	567	590	600	613	619	632	565

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	498	505	523	535	539	555	567	590	600	613	619	632	6776

2. 職員配置状況

(人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
相談支援専門員	常 勤	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
相談員	常 勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計		7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

3. 支援業務

(1) サービス等利用計画案、サービス等利用計画の策定

- ・ アセスメントに基づきサービス等利用計画案を作成。
- ・ サービス担当者会議に基づき、サービス等利用計画を作成。

(2) 主な日中活動

- ・ 基本相談支援
 - ・ アセスメント
 - ・ サービス等利用計画案の作成
 - ・ サービス担当者会議の開催
 - ・ サービス等利用計画の作成
 - ・ モニタリングの実施

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

なし

5. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
サービス担当者会議	計画作成時		9回	相談支援専門員他		
要保護児童対策地域協議会	随時		12回	相談支援専門員他		
ケース会議	随時		156回	相談支援専門員他		
自立支援協議会 (事務局会議含む)	毎月1回	24回		相談支援専門員他	10～15名	

7. 評価と展望

〔評価〕

- ・障がい種別に関係なく、札幌市の障がい児・者又は家族の日常生活の相談、金銭管理、福祉サービス、就労支援、精神的支援に訪問、来所、電話、メールで応じた。各種福祉サービス申請に関わる援助をし、区役所、児童相談所、教育相談、病院、学校、法律事務所などの同行支援等を行った。計画相談として、サービス等利用計画の作成をした。
- ・札幌市自立支援協議会、札幌市自立支援協議会東区部会に参加した。障がい有無に関わらず、互いに理解し、共生できる地域を目指すことを目的に研修等を行った。関係機関との連携で、要保護家庭や保護者に障がいがある家庭、子どもに障がいがある家庭への支援を行った。
- ・地域支援員の委託を受け、保育士さん等と協力し、民生児童委員、福祉協力員の方と一緒に地域に浸透するよう活動した。民生委員からの相談ケースもでてきており、連携することができた。

〔展望〕

- ・今後も本人主体の相談を心がけ、人権を尊重した支援を行う。
- ・児童発達支援センター、児童相談所、病院、まあち、保健センター、学校等の関係機関と連携する。
- ・本人そして家族を大事にする相談室を目指す。

むぎの子ども相談室

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	225	225	225	225	225	225	227	227	228	229	229	229	227
北区	60	60	60	61	61	61	61	61	62	62	63	63	61
西区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
南区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
中央区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
手稲区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
石狩市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
当別町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	299	299	299	300	300	300	302	302	304	305	306	306	302

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	11	25	31	19	30	35	31	36	33	12	17	38	318

2. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
相談支援専門員	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

3. 支援業務

(1) サービス等利用計画案、サービス等利用計画の策定

- ・ アセスメントに基づきサービス等利用計画案の作成
- ・ サービス担当者会議に基づき、サービス等利用計画の作成
- ・ 基本相談支援
- ・ アセスメント
- ・ サービス担当者会議の開催
- ・ モニタリングの実施

7. 評価と展望

〔評価〕

- ・ 家族のニーズに合わせて、各事業所や委託の相談室等と連携しながら、サービスの更新や変更等の支援や、新規申請ともすばやく対応していった。
- ・ 同意をもらう計画を立て、前年度よりも本計画やモニタリングを請求に繋げられる件数が増えた。
- ・ 計画相談の手続きとして、①保護者が区役所に申請に行く、②申請後、計画相談の依頼という流れが保護者の方で理解していない方がいるので、まずは保護者が区役所に申請の手続きを行うことを伝えながら、難しい場合は代理申請等の支援を行なった。

〔展望〕

- ・ 今後も子ども達や家族に寄り添いながら、必要な支援にすぐに繋がれるように計画相談を行い、また本計画とモニタリングの請求件数を増やしていく。
- ・ 地域療育等支援事業や、地域支援マネージャー、委託の相談室等とも連携しながら、地域支援や家族支援を行っていく。
- ・ 各機関や事業所、担当者と連携しながら、スムーズにサービスの利用に繋がったり、子どもや家族の困り感に寄り添い、支援していく。

居宅介護事業所むぎのこ

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

居宅介護

(単位 人)

市区町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	136	140	135	137	145	137	142	135	138	141	148	127	138.42
北区	11	11	12	10	11	10	11	9	12	14	11	8	10.83
西区	2	2	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	1.83
手稲区	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.92
計	149	154	150	149	159	150	156	147	152	158	162	138	152
前年度	159	158	159	153	153	153	158	156	163	161	158	159	157.5

行動援護

市区町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	38	39	36	37	39	37	38	40	40	42	41	26	37.75
北区	5	5	6	6	7	5	7	5	6	7	6	5	5.83
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0.25
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0.92
計	44	45	43	44	47	43	46	46	47	51	49	32	44.75
前年度	44	43	44	44	44	44	46	45	46	44	44	44	44.33

移動支援

市区町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	63	64	66	66	71	64	64	63	72	69	71	63	66.33
北区	4	4	4	2	2	2	2	2	2	1	0	0	2.08
西区	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.25
手稲区	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.92
計	68	70	72	69	74	67	67	66	75	71	72	64	69.58
前年度	59	56	60	56	55	56	52	54	51	48	48	46	53.42

(2) 利用延べ人数

居宅介護

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	491	539	596	577	490	591	621	523	541	491	521	614	6595
前年度	547	568	573	622	499	501	561	506	478	506	489	538	6388

行動援護

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	23	26	33	33	36	43	58	55	69	51	41	44	512
前年度	44	44	47	42	32	33	34	30	35	24	22	22	409

移動支援

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	128	73	271	287	204	258	276	242	253	151	210	248	2601
前年度	217	271	290	293	142	255	309	244	214	148	225	75	2683

2. 職員配置状況

(人)

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者	常勤・兼務	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス提供責任者	常勤	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
登録ヘルパー	非常勤	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
合計		40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40

3. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・アセスメントに基づきサービス等利用計画案の作成
- ・年1回作成した介護計画を保護者に説明して同意を得る。
- ・モニタリングの実施

(3) 主な日中活動

- ・アセスメント
- ・介護計画の作成
- ・モニタリングの実施
- ・居宅介護事業（食事介助・入浴介助・排泄介助・家事援助・行動援護等）
- ・移動支援事業（外出時における移動中介助・排泄・食事の介助）

7. 評価と展望

〔評価〕

- ・通院や家事援助などの日中の支援が増えた。
- ・状況に応じて各部署が集まって支援会議を行う事で、利用者さんの情報を共有でき、ヘルパーの支援内容の方向性が決まり支援することが出来た。
- ・登録ヘルパーさんに、マスクの着用、ヘルパー前後の手指手指消毒、食事介助の時のフェイスシールドとグローブの使用を徹底し、感染予防に努めた。

〔展望〕

- ・通学支援の時間帯、年齢に応じた同性介助ができるようにスケジュール調整を行い利用者さんのニーズに答えられるようにする。
- ・登録ヘルパーさん対象の研修を計画し実施する。
- ・引き続きC S Pを用い効果的な褒め方をして肯定的な関わりを行っていけるように努める。

むぎのこ発達クリニック

1. 施設利用状況

- ・1年間の受診者数 13,698人 1日平均51.3人
(紹介状:371通 特別児童扶養手当診断書:150通
国民年金診断書(精神障害用):43通 福祉手当診断書:12通
自立支援意見書:30通 精神通院医療診断書:8通
デイサービス診断書:86通 発達・知能検査レポート文書:644通
保育園幼稚園加配診断書:21通 アレルギー診断書:16通
保育園診断書:24通)
- ・インフルエンザ予防接種 1090人 その他文書:9通
- ・定期・任意の予防接種(定期接種:376人 任意接種:68人)

2. 健康管理業務

(1) 医療体制

- ・通常の診療体制が、その月によって生じる体制変更の内容は、むぎのこ掲示板とジャンプレッツに掲示している。その月によって掲示の遅くなる時があったので、前月の終わり頃に貼りだすようにしていく。また、クリニックだよりのお知らせ欄には、確実に記載していく。
- ・療育中のけがにおいては、診療を最優先にして即時に対応した。
- ・特定の整形外科等とは、今後も協力いただけるよう、日頃の連携を大切にしていた。

(2) 健康管理

- ・職員の健康診断を、早期に済ませられるようスケジュールに沿って確実に受けられる手配を手早くした。
- ・秋には、法人全体の健康診断状況や結果をチェックして必要時個別に対応した。
- ・各事業所の感染対策、衛生管理等の意識付けをタイミングをみて行った。
- ・市内の感染症や法人内の罹患状況を把握して、できるだけ迅速に対応して蔓延防止に努めた。

3. 施設設備管理業務

- ・セコムに引き続き依頼して、防犯対策を行った。
- ・設備の点検・補修等は、辻野建設にすぐに対応していただいた。
- ・施設周囲の点検・整備はこまめに行い、近隣とのコミュニケーションの目的としても意識して行った。

4. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
医師	非常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
診察補助者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
診察補助者	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ST/OT/心理療法者	常勤	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
ST/OT/心理療法者	非常勤	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
事務員	常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3
事務員	非常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計		19	19	20	20	20	20	20	20	20	20	21	21

5. ボランティアの受入

・特になし

6. 実習生・介護等体験の受入

むぎのこ実習生に対して、クリニックでの各種療法や親子教室の見学など、クリニックの位置づけを通して、依頼時には随時対応した。作業療法実習生の受け入れは、感染症予防対策のため、学校側の申し出により2021年度に実習振替することとなった。

7. 障害者自立支援法による事業の整備

むぎのこ利用児・者の他にも、福祉資源を有効に活用できるよう情報提供と、必要時診断書および意見書の作成・調整・相談を行った。

8. 人事労務・給与制度等(全事業共通)

人事労務管理	異動事項特になし
給与制度	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉職員処遇改善助成金による処遇改善の実施 ・最低賃金改定に伴い時間給を改善 ・みなし労働制を導入
職員福利厚生	<ul style="list-style-type: none"> ・職員福利厚生の充実のため、パートタイム職員も含め、福利厚生センター（ソエルクラブ）への加入を促進した。 ・全職員に対する定期健康診断を実施した。 ・腰痛検査を実施した（直接処遇職員）。

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/1	むぎのこ	法人研修	名

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
9/6～8	日本作業療法士協会	第53回日本作業療法学会	1名
2/4,10,17,25, 3/3,5,11,15,18,22	リハテックスリンクス 株式会社	「育ち」に介入する小児作業療法士基本シリーズ-全10回 LIVE 配信-	1名

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
全体会議	月1回	12回	0回	クリニック全職員	7～8名	

11. 財務・事務管理(全事業共通)

情報公開	・各事業所に事業・法人の報告・計画、決算・予算等を開示した。
------	--------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを全面更新し、情報発信を強化した。 ・後援会と連携し、日常の様子を公開に努めた。
個人情報保護と共有	<ul style="list-style-type: none"> ・電子データを外部メディア等に複写すること等の禁止を徹底した。 ・電子データは専用サーバーに保存し、職員のみ VPN 接続で共有した。
苦情対応	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情処理要綱により、各事業が迅速に対応した。
業務の効率化・コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> ・本部配置職員(パートを含む)を増員し、各事業の共通業務を一元管理した。 ・各事業所のパソコンを随時更新・追加し、業務の効率化を図った。
契約の公正・透明性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・利用契約は担当職員によって公正に契約した。 ・経理系契約は入札を含め、経理規程を遵守した。
事務管理の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ・法人職員と各事業所事務担当職員との連携を図った。
第三者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価は実施していない。

12. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
月		

13. その他特記事項

法人内の医療事業としての意識をもって、むぎのこの年間スケジュールにより沿った連携が 取れたと思う。今後は、より具体的な内容・意識を持って連携が取れればと思う。

14. 評価と展望

(1)心理療法・査定（アセスメント）

令和2(2020)年度心理支援業務報告 報告者 公認心理師・臨床心理士 吉村実保

令和2(2020)年度の心理士の体制は、非常勤公認心理師：秋田有紀子・加藤香子・水上真理子・吉村実保の5名が勤務した。

① 個人心理療法

心理療法の方法は、各セラピストの専門性により、実際の行動の改善を目的とするアプローチ（認知行動療法、遊戯療法、精神分析的トラウマ療法／秋田）、心の中の対人関係の改善やコミュニケーションの向上を目指すアプローチ（発達期の認知行動療法、遊戯療法／吉村）、支持的心理療法（水上）など様々あるが、セラピストは個々のクライアントのニーズや問題を十分考慮した上で、そのクライアントに適した支援を行った。

秋田は、6名に実施した。内容は、認知行動療法2名、緘黙のコミュニケーショントレーニング1名、遊戯療法1名、精神分析的トラウマ1名、発達期の認知療法1名だった。

水上は、7名に実施した。内容は、PTSD、不登校、対人・コミュニケーション上の困難、感情・情緒面の問題を抱える児・生徒に描画、支持的面接を行った。

吉村は、12名に実施した。内容は、遊戯療法及び認知行動療法ベースの遊戯療法だった。

合計 ケース

② 心理査定

各種（発達・知能・心理）検査は、子ども【新版K式発達検査、WISC-IV、田中ビネー知能検査、描画をはじめとした心理検査 etc】、成人【WAIS-III、田中ビネー知能検査 etc】を実施した。

a) 新版K式発達検査

秋田（48）、加藤（60）、吉村（156）、クリニック支援（92）

合計 356 ケース

b) 田中ビネー知能検査（全訂版、V）

秋田（30）、加藤（47）、吉村（180）、クリニック支援（9）

合計 266 ケース

c) ウェクスラー式知能検査（WISC-IV・WAIS-III）

秋田（37）、加藤（18）、吉村（89）、クリニック支援（8）

合計 152 ケース

d) その他発達検査（遠城寺式・乳幼児分析的発達検査など）

加藤（1）、吉村（3）

合計 4 ケース

e) 質問紙法による心理検査（MMPI, YG, TEG, MAS etc）

秋田（2）、吉村（3）

合計 5 ケース

f) 投映法による心理検査（HTP, PF スタディ, 風景構成法, バウム, ロールシャッハ etc）

秋田（4）、吉村（6）

合計 10 ケース

g) 神経心理学的検査（フロスティグ視知覚発達検査, ベンダーゲシュタルト検査, Rey 複雑図形検査）

秋田（1）、吉村（7）

合計 8 ケース

h) 発達心理学的検査（グッドイナフ人物画知能検査）

秋田（7）、加藤（15）、吉村（22）

合計 44 ケース

③ 集団精神療法

方法はそれぞれの集団の特徴を考慮し、SST、ロールプレイ等の認知行動療法や集団プレイセラピーを組み合わせて実施した。

今年度実施した小集団は、合計10グループだった（隔週1回40～50分）。

センターぞう組（パンジー含）：4グループ（6人／秋田, 6人／加藤, 6人／水上, 8人／吉村）

事業シーランチ組：3グループ（7人／秋田, 7人／加藤, 6人／吉村）

事業ヨシア組：3グループ（13人／加藤, 9人／水上）

水上は通院する児の親16名に対人パターン別の集団精神療法を実施した。

(2) 障害児・者リハビリテーション

1. 令和2(2020)年度言語聴覚業務報告

言語聴覚士 矢田 麻貴 結城佳生里

I. “言語聴覚士業務計画”に基づく実施報告

① 言語評価

医師の指示の下、コミュニケーションに関する客観的ならびに主観的評価を実施し、親への説明、相談を行った。評価後は必要に応じて指導へと移行した。

② 言語指導

R2(2020)年度末時点での言語聴覚療法対象児の総数は名(矢田 112名 結城 84名 196名)(むぎのこ利用児・外来含む)であった。子どもの状態に応じて、40分間の個別指導を主とした言語指導、構音（発音）指導、AAC（拡大・代替コミュニケーション）指導、摂食指導を行った。定期的に、医師を交えて親への内容・経過報告、方針再検討等の機会を設けた。

※3月で終結また新規開始予定児や評価のみも含む。

④ 摂食指導

従事した対象児は0名。

2. 令和2(2020)年度作業療法士業務報告

作業療法士 大坪光保 松田京 板東彩花 保科このみ 久保恵利
運動機能面（粗大動作・巧緻動作・協調運動など）・行動面・情緒面・認知面等に発達上の困難さがある子どもについて、医師の指示のもと評価し、1回40分～60分、週1回または2週間に1回、月1回の設定で作業療法（個別機能訓練）を実施した。また、作業療法評価のみを実施し、結果を診察時にお伝えして経過観察とする例もあった。

札幌市より、社会福祉法人麦の子会が指定管理を受けたことにより、札幌市みかほ整肢園でのリハビリテーション業務を大坪と保科が兼務した。

大坪：117例 松田：育休中 板東：91例 保科：35例 久保：18例 （計：261名）

3. 令和2(2020)年度理学療法業務報告

理学療法士 松原鮎香

運動機能面(粗大運動・協調運動など)・行動面・情緒面・認知面等に発達上の困難さがある子どもについて、医師の指示のもと評価し、1回40分～60分、週1回または2週間に1回、月1回の設定で作業療法(個別機能訓練)を実施した。また、理学療法評価のみを実施し、結果を診察時にお伝えして経過観察とする例もあった。

松原：17例 (計：17名)

(2) 親子教室

午前：週2回、午後：週3回、未就園児から市内の保育園・幼稚園に通っている未就学児までを対象とし、親子教室(クリニック母子支援事業)を、医師、公認心理師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、看護師、児童指導員とともに実施した。

(3) むぎのこ児童発達支援センター、児童発達支援事業むぎのことの連携

・月1回、落合作業療法士の来園訓練に合わせ、パンジー組の訓練対象児への関わり方を指導いただき、都度、パンジー組通園児を中心に、センター・事業それぞれの通園児らの運動機能・生活技能・認知機能の獲得、維持、向上を図るためそれぞれ個別に関わり、直接的または間接的に発達支援を行った。

(4) クリニック他職種との連携

医師、心理師、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、看護師と、都度、対象者についての報告・相談を行い、毎月のクリニック全体会議の中で情報交換をし他職種とのより円滑な業務連携が図られるよう努めた。